

小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。

本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

電子データの取扱いについて

電子データの内容について

■本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。

■カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。

また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社(小橋工業株式会社)が著作権その他知的財産権を保有します。無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面にに基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願いいたします。

免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。

弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

以上

小橋工業株式会社

コバシディスクローター

取扱説明書

DS426 ・ 626T (-0S. -3S. -4S)

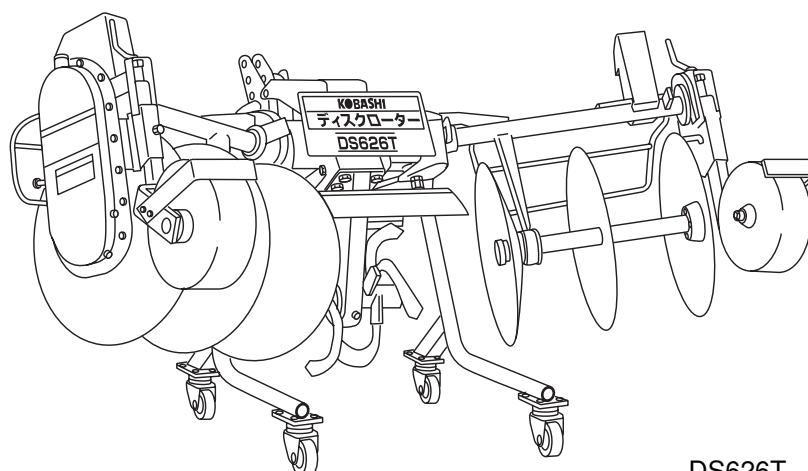
DS426 ・ 626－S

DS426 ・ 626－T

DS426 ・ 626－U

DS426 ・ 626－MU

DS426 ・ 626－YB



DS626T



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本
取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、
事故を引き起こす恐れがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

KOBASHI

はじめに

このたびはコバシディスクローターをお買い上げいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は、ディスクローターの性能を十分に発揮させ、より安全で快適な農作業をしていただくためにも、ご使用前によくお読みいただき、正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。

又、ディスクローターを他の人に貸出しされる場合には、この取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくようにご指導をお願いいたします。

なお、本製品については、不断の研究成果を新しい技術としてただちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますが、あらかじめご了承ください。

▲ 安全作業のポイント

◎安全な作業をしていただくためには、まず機械の使い方を十分理解し、正しい取扱いをすることが基本となります。

◎この取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱上の注意事項について、次のように表示しています。

必ずお読みいただいて事故のない安全な作業をしてください。

▲ 危険…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

▲ 警告…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

▲ 注意…その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。

取扱上の注意…その警告文に従わなかった場合、機械の損傷を起こす恐れのある操作を示します。

ディスクローターの使用目的・使用範囲

このディスクローターは反転耕起用作業機です。

ダイレクトでの耕うん、重作業には使用できません。

使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

目 次

▲ 安全に作業するために 1

- 1 はじめに 1
- 2 作業の前に 2
- 3 トラクタへの着脱 2
- 4 防護カバー類の取付け 2
- 5 装着時の前後バランスの確認 2
- 6 トラックへの積み・降ろし 3
- 7 一般走行 3
- 8 圃場への出入り 4
- 9 作業をしているとき 4
- 10 作業中の点検 5
- 11 トラクタを止めるとき 5
- 12 その他 5

▲ 安全ラベルの取扱い 7

サービスと保証について 9

各部の名称 10

ディスクローターの組立

（日農工標準 3 P ヒッチ） 11

ディスクローターの組立

（日農工標特殊 3 P ヒッチ） 12

ジョイントの取付準備 12

（日農工標準 3 P ヒッチ） 13

- 1 切断方法 13
- 2 取付方法 13
- 3 長さの確認 14
- 4 入力軸セフティカバーの取付け 14

トラクタへの装着

（日農工標準 3 P ヒッチ） 15

- 1 装着前の準備 15
- 2 トラクタへの装着 17
- 3 装着後のトラクタとの調整 19
- 4 トラクタからの取外し 19

トラクタへの装着

（日農工特殊 3 P ヒッチ） 20

- 1 トラクタへの装着 20
- 2 トラクタからの取外し 21

作業前の点検 22

- 1 各部のボルト・ナットのゆるみ 22
- 2 ジョイントへのグリスアップ 22
- 3 ギヤーケース（センターケース）
チェーンケースのオイル量 22
- 4 ジョイントのロックピン 23
- 5 空転、暖機運転 23

移動・圃場への出入り 23

上手な作業の仕方 24

- 1 各装置の働きと操作のしかた 24
- 2 作業速度とディスク回転数 25
- 3 耕うん方法 26

ディスク交換のしかた 27

- 1 ディスク軸の取外し 27
- 2 ディスクの取外し 27
- 3 ディスクの取付け 27
- 4 ディスク軸の取付け 28
- 5 耕うん爪の取付け 28

保守・点検 29

保管・格納 31

主要諸元 32

トラクタ別装着表 38

点検整備一覧表 47

異常診断一覧表 48

用語解説 50

▲安全に作業するために

安全に作業していただくために次のことを守ってください。
もし怠ると…傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります。

1 はじめに

- 1-1 取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてからご使用ください。

トラクタの取扱説明書もあわせてよくお読みください。

機械の操作を知らずに使用するとたいへん危険です。

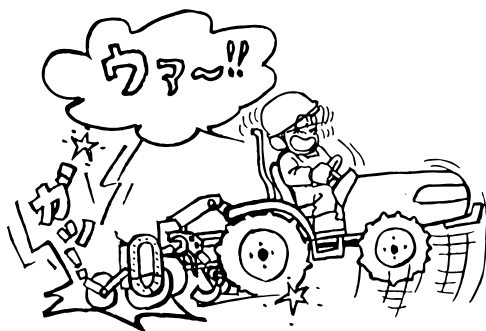
- 1-2 取扱説明書は、いつでも読めるように、機械と一緒に大切に保管してください。

- 1-3 機械を他人に貸出しされる場合は、取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくように、指導してください。



- 1-4 適応トラクタ以外への装着の禁止

主要諸元表に適応トラクタ馬力を表示していますので熟読の上、適応馬力内のトラクタに装着してください。特にトラクタ馬力が小さい場合はトラクタとの重量バランスが悪くなり事故の原因となります。



- 1-5 服装には注意を払いましょう

作業中の服装は、ヘルメット、シートベルト、すべらない靴、キチンとした作業服を着用してください。だぶついたズボンや上着など、回転部分に巻き込まれやすい服装は、たいへん危険です。ボタンもキチンととめましょう。



- 1-6 次のような状態では、運転しないでください。

- ① 飲酒運転
- ② いねむり運転
- ③ 病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
- ④ 若年者
- ⑤ 妊娠中の方

機械の操作に十分熟練し、必要な運転免許証を携帯し、心身ともに健康な状態で運転してください。



- 1-7 共同作業がある場合は、動作ごとに合図を徹底しましょう。

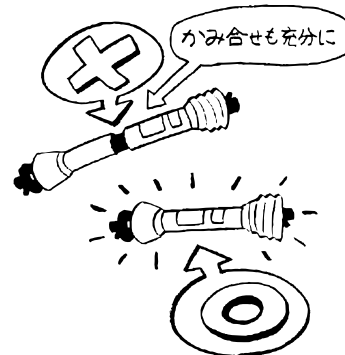
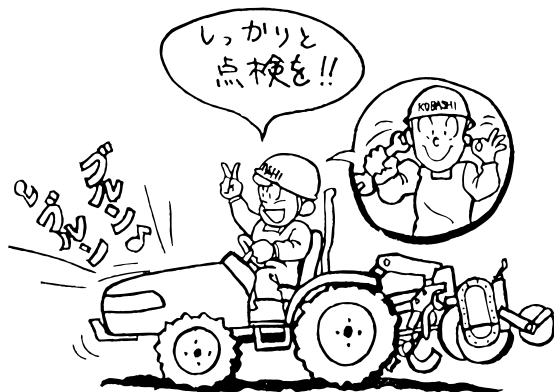
- 1-8 使用目的以外の作業や、機械の改造は事故の発生、又は、機械の故障の原因となりますので、決してしないでください。

⚠ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

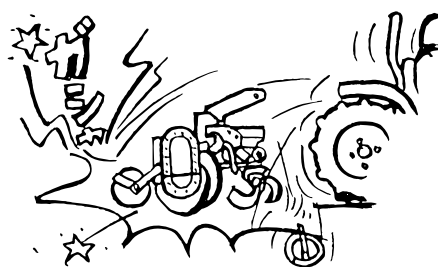
2 作業の前に

2-1 機械の点検を

各部のボルト、ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認してください。作業中にボルト、ナット、ピンなどが外れますと、作業機やトラクタの破損の原因及び事故の原因となります。



3-6 取付各部のトメピンが全て確実に装着されているか確認してください。



3 トラクタへの着脱

3-1 作業機の着脱及び調整は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行いましょう。特に夜間の作業機の着脱は、安全で適切な照明を用いる等、安全に留意して行ってください。

3-2 トラクタを移動して作業機を装着する場合には、トラクタと作業機の間に人が入らないように注意してください。



3-3 トラクタと作業機の着脱に際しては、いつでも逃げられる安全な態勢で操作し、このときトラクタは必ずブレーキで止めておいてください。

3-4 二人以上で着脱を行う場合は、互いに合図しあいましょう。

3-5 ジョイントのノックピンが、確実にPTO軸溝に、又作業機入力軸溝にはまったか確認してください。

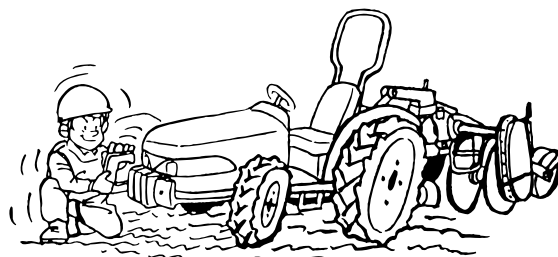
4 防護カバー類の取付け

4-1 ジョイントをはじめ、作業機のセフティカバー防護カバー類は必ず取付けてください。

5 装着時の前後バランスの確認

5-1 作業機とトラクタとのバランスの確認

作業機を装着すると機体の長さや幅が大きくなり、重量バランスが変わります。確認の上トラクタの前輪に20%以上のウエイトがかかるように、フロントウエイトを取付けてください。なお、作業機に泥が付着して、重たくなる場合もありますので注意してください。又、アタッチメント等を取付けて使用される場合もバランスの確認を行い、フロントウエイトを取付けてください。

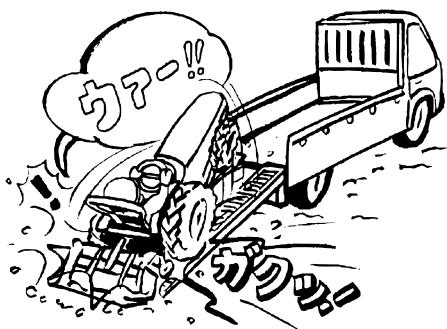


▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

- 5-2 作業機に他のアタッチメントを取付ける場合は、事前に必ずアタッチメントの取扱説明書を良く読んでください。

6 **トラックへの積み・降ろし**

- 6-1 積み・降ろしの場所は平坦で安全なところを選びましょう。
- 6-2 すべり止めをした丈夫なアユミ板を確実に固定してください。傾斜角度、平行度を確認してください。
- 6-3 トラックは移動しないようにしっかりと車のサイドブレーキをかけてください。
- 6-4 トラクタの左右のブレーキペダルを連結し、脱輪ないように注意してください。又途中でクラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。低速で積み・降ろしをしてください。
- 6-5 作業機を装着しての積み・降ろしはトラクタの重量バランスが変わります。泥の付着等もあり、十分注意して行ってください。



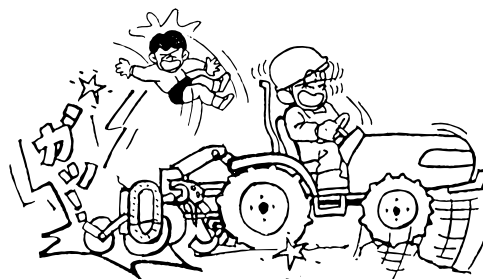
- 6-6 折りたためる作業機は折りたたみ、エクステンションエプロンもたたみ、トラックの荷台よりはみ出さないように注意し、強度が十分あるロープで確実に固定してください。

7 **一般走行**

- 7-1 トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。
(道路運送車両の保安基準)
作業機を装着して走行すると、他の車や電柱等に引っかけて事故の原因になります。



- 7-2 トラクタ・作業機には運転者以外の人を乗せないでください。

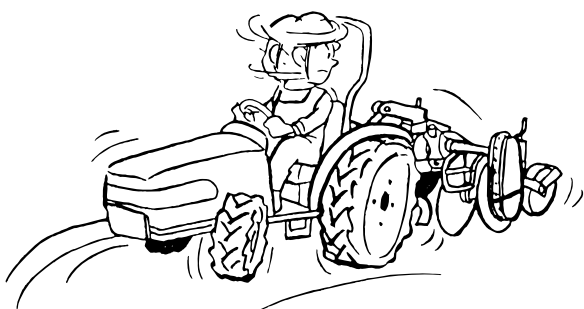


- 7-3 左右のブレーキペダルを連結して走行してください。

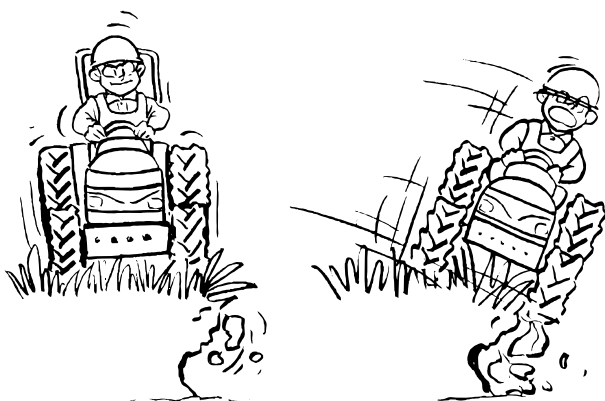


⚠ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

- 7-4 作業機の回転を止めて走行してください。
- 7-5 作業機の落下速度調節レバーを締めて、必ず油圧ロックをして走行してください。
- 7-6 必要以上の高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回をしないでください。
- 7-7 旋回するときは、作業機に人や物が接触しないように注意してください。



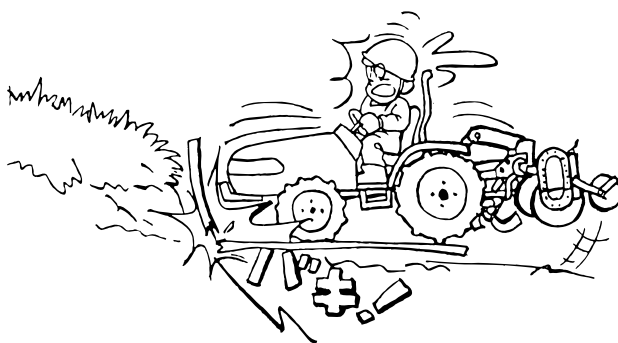
- 7-8 作業機は左右がトラクタの機体幅より広いため、走行時は十分注意してください。移動時は作業機の折りたたむ箇所は折りたたみ走行してください。又スタンドがついている場合も必ず外してください。
- 7-9 路肩に草が茂っている所を走行するときは特に路肩の強度に気を付けてください。



- 7-10 坂道では、クラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。
- 7-11 坂道では、スピードを落とし、低速で走行してください。
- 7-12 坂道では、エンジンブレーキを使用し、急ブレーキをかけないでください。

8 圃場への出入り

- 8-1 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げ、うねや段差に対して直角に進んでください。
- 8-2 圃場から出るときは、傾斜しているうねはバックで上るか、又は丈夫なアユミ板を使用してください。



- 8-3 うねや段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。作業機を低くして重心を下げ、直角に進めてください。

9 作業をしているとき

- 9-1 いねむり運転、わき見運転をしないようにあらかじめ体調を整えてください。
- 9-2 回転部分等、動く所には触れないでください。
- 9-3 作業中は、まわりに人を近寄せないでください。特に子供には十分注意してください。補助作業がある場合は、動作ごとに合図をかわしてください。

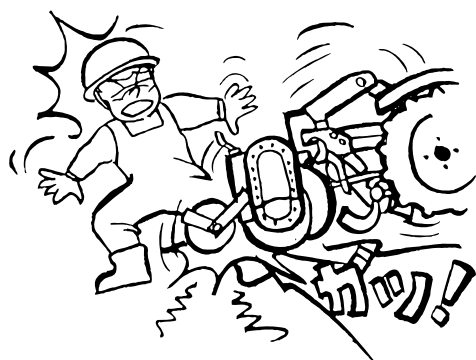


- 9-4 運転者が運転位置をはなれて作業機を調整する場合、又、爪軸等への草やワラのからみ付きを取りのぞく場合等は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれていることを確認した上で行ってください。

▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります



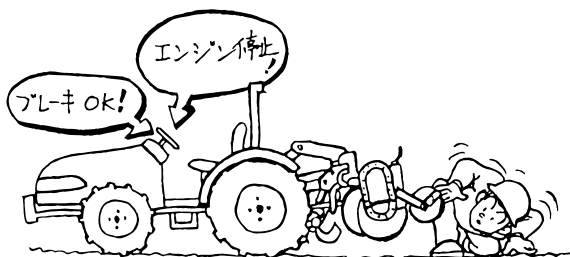
- 9-5 作業機の下にもぐったり、足をふみこんだりしないでください。



- 9-6 ぬかるみにはまっても作業機は絶対に外さないで、他の車に引き上げてもらってください。牽引点は低くしてください。

10 作業中の点検

- 10-1 作業機の点検を行うときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれていることを確認した上で行ってください。又、油圧ロックも必ず行ってください。



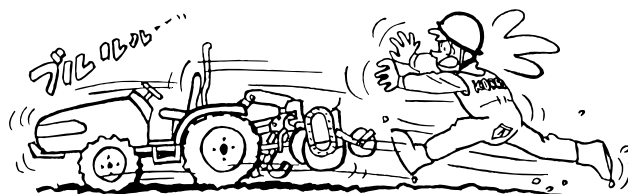
- 10-2 点検のために外した安全カバーは、必ず元の通りに取付けてください。



- 10-3 ラジエーター、マフラーは高温になりますので、ヤケドに注意してください。
- 10-4 点検整備に必要な工具類は、適切な管理を行い、正しい使用をしてください。

11 トラクタを止めるとき

- 11-1 平らな場所に止めてから、作業機を降ろしてエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。
- 11-2 傾斜地に止める場合は、タイヤに必ず車止めをしてください。



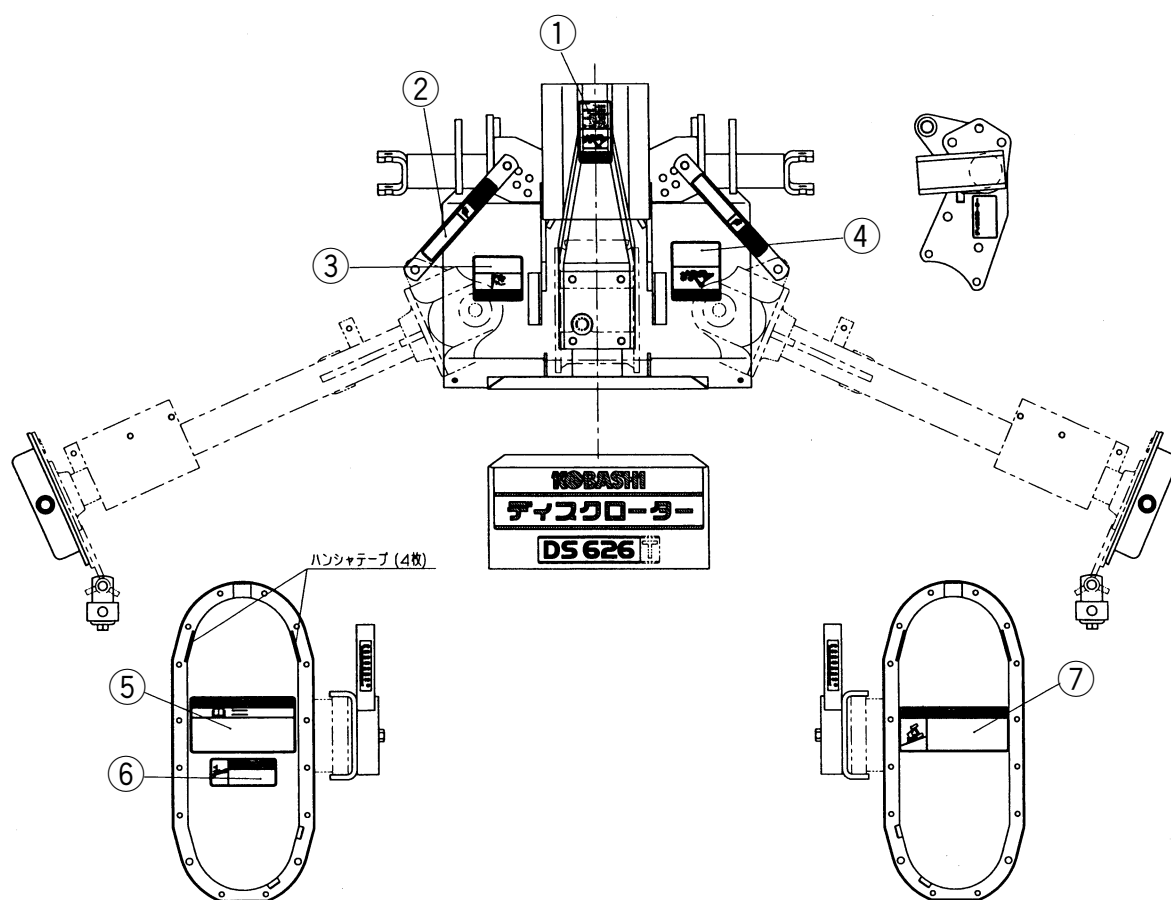
12 その他

- 12-1 作業機指定のPTO回転数を守ってください。低速回転用の作業機を高速回転で使用すると作業機が異常作動し危険です。
- 12-2 トラクタのエンジン始動時は、作業機が下がっていることを確認してください。作業機が不意に下がることもあり危険です。

安全ラベルの取扱い

- ① いつも汚れや泥をとり警告がハッキリと見えるようにしてください。
- ② 安全ラベルが損傷したり破損した時は、新しいものと交換してください。
- ③ 安全ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に安全ラベルを貼ってください。

コバシディスクローターには、次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。



① コードNo.9992126

 危険

●セフティカバーは、常に装着して使用してください。 ●巻き込まれて、死傷するおそれがあります。
9992126

② コードNo.9993302

 注意		●ギヤング角の調整は、作業機をトラクタに装着し、作業機を水平にして行ってください。 ●ケガをするおそれがあります。
9993302		

③ コードNo.9992074

 警告

ロータリーの回転部に接触すると、ケガをするおそれがありますので、回転部に近づかないでください。
9992074

④ コードNo.9992127

 危険

●エンジンまたはジョイントが回転中は、体を近づけないでください。 ●巻き込まれて死傷するおそれがあります。
9992127

⑤ コードNo.9992087

 注意

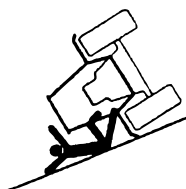
使用前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。
1. 作業機を着脱するときは、トラクタと作業機の間立たないでください。 2. エンジン始動時や作業中は、周囲の安全を確認し、人がいないか、特に子供には注意し、近づけないようにしてください。 3. 作業機の上に人を乗せないでください。 4. 点検整備時には、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、油圧降下防止用ストップバルブを締めてから行ってください。また、絶対に作業機の下に入って作業をしないでください。 5. ジョイントのノックピンが確実にロックされていることを確認してください。
9992087

⑥ コードNo.9993228

 注意

●ディスクは周囲が鋭利になっているため、取扱いには充分注意してください。 ●ケガをするおそれがあります。
9993228

⑦ コードNo.9992086

 警告

●転落事故を防ぐためには、発進や登坂時にトラクタの前輪が浮き上がらないように充分な前部ウエイトを取付けてください。 ●作業機にアタッチメントを装着する時には、特にバランスを注意するとともに、アタッチメントの取扱説明書をよく読んで、適切な処置や調整を行ってください。
9992086

サービスと保証について

1 保証書について

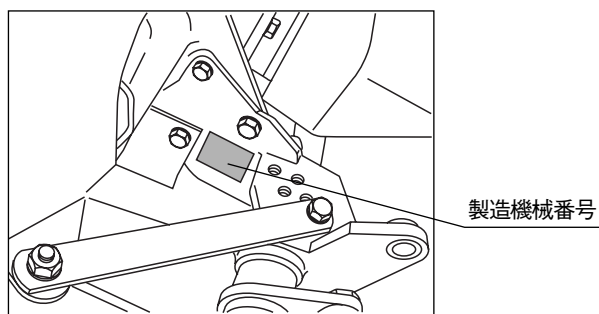
コバシディスクローターには保証書が添付してあります。保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

2 アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げ頂いた販売店、農協、弊社営業所までご連絡ください。

その際

- 機械の型式名と製造機械番号
- ご使用状況（作業速度、回転数はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか（約〇〇アール・約〇〇時間使用后）
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。



補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後9年といたします。

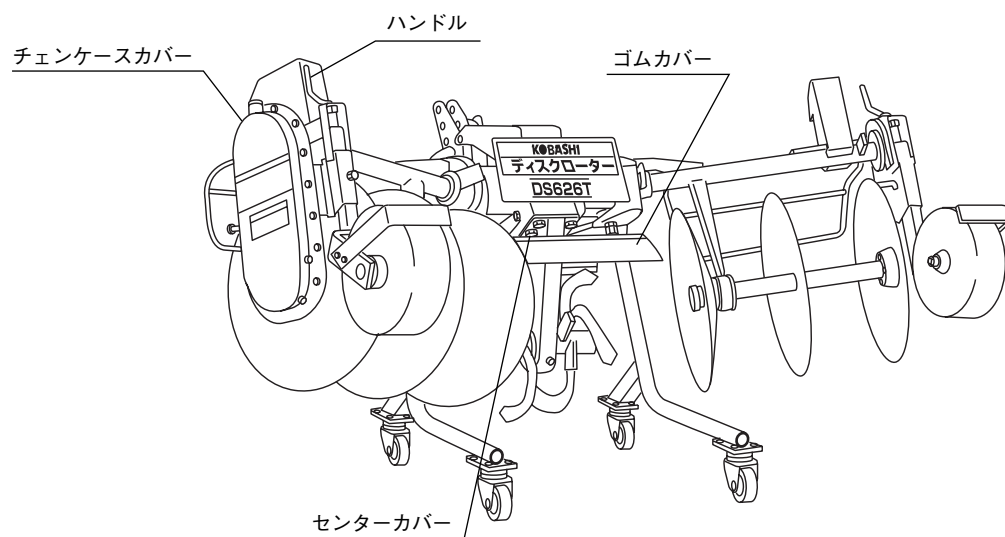
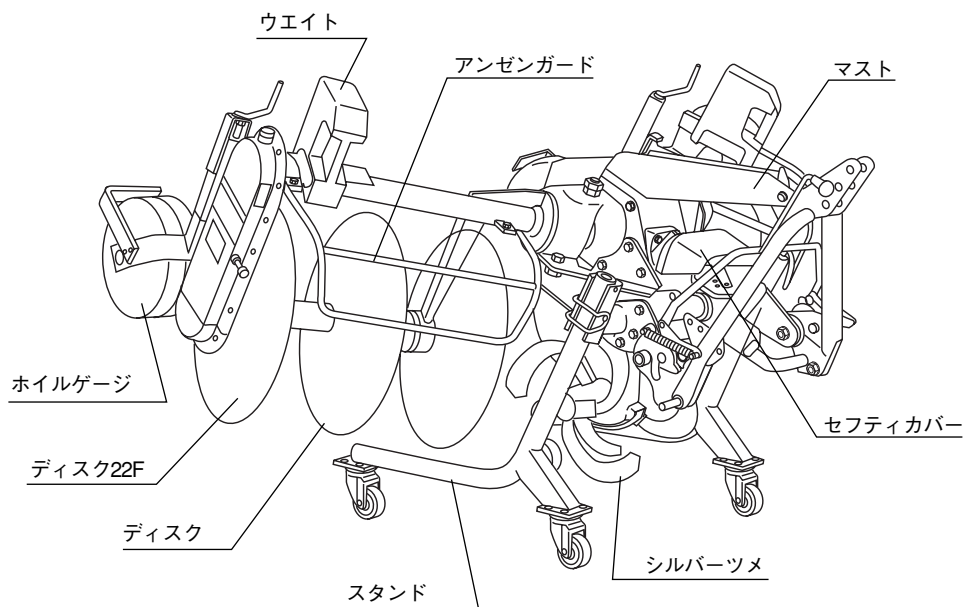
但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

各部の名称



ディスクローターの組立（日農工標準3Pヒッチ）

1. 開梱

ディスクローターは、木枠梱包されていますので開梱してください。

⚠ 注意

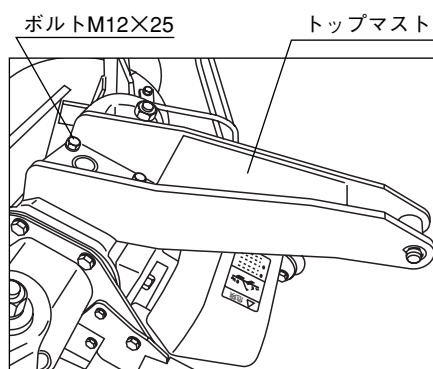
木枠梱包には、スクリュウクギが使用されています。クギの踏み抜きなどないように注意して開梱してください。

2. 下記の部品が本体と分かれていますので、組付けてください。

部 品 名	数 量	摘 要
トップマスト	1	
ホイルゲージ L	1	
ホイルゲージ R	1	
スタンド	2	
ジョイント	1	3S. 4S のみ
オートヒッチ	1	3S. 4S のみ
ウエイト	2	DS626 のみ

(1) トップマストの取付け

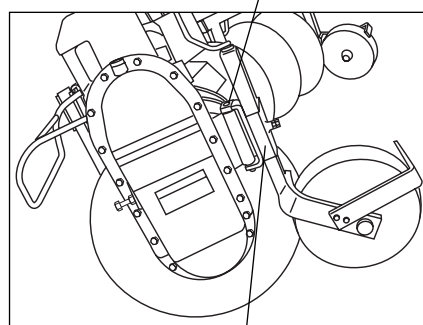
トップマストの取付ボルト（M12×25）4本でしっかりと締付けてください。



(2) ホイルゲージの取付け

- ① ホイルブラケットピンのワリピンを抜きピンを一旦外します。
- ② チェンケースプレートにホイルブラケット部を合わせてホイルブラケットピンを差し込み、ワリピンで止めてください。

ホイルブラケットピン

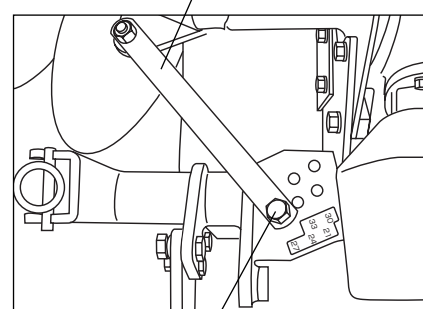


ホイルブラケット

(3) ギャング角の切替え

ギャング角を耕うん時（27°）に切替えます。固定ボルト（M14）を外して、ギャングリンクを27° に合わせて締付けます。

ギャングリンク



ボルト (M14)

ディスクローターの組立（日農工特殊3Pヒッチ）

1. 開梱

ディスクローターは、木枠梱包されていますので開梱してください。

⚠ 注意

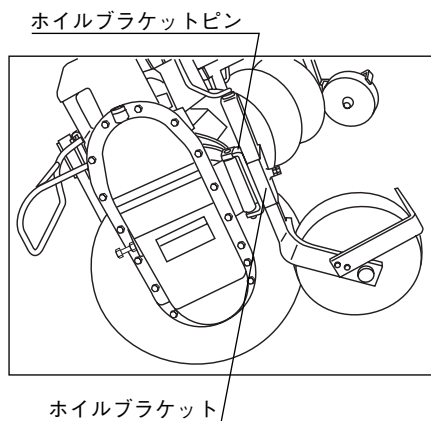
木枠梱包には、スクリュウクギが使用されています。クギの踏み抜きなどないように注意して開梱してください。

2. 下記の部品が本体と分かれていますので、組付けてください。

部 品 名	数 量	摘 要
ホイルゲージ L	1	
ホイルゲージ R	1	
スタンド	2	
ウエイト	2	DS626 のみ

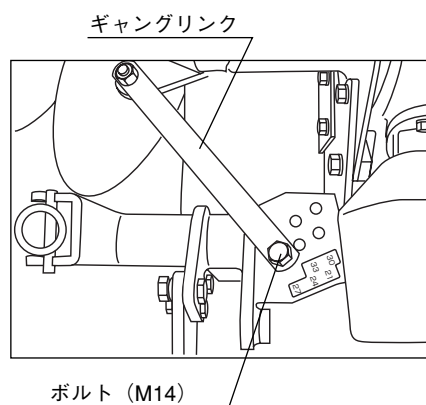
(1) ホイルゲージの取付け

- ① ホイルブラケットピンのワリピンを抜きピンを一旦外します。
- ② チェンケースプレートにホイルブラケット部を合わせてホイルブラケットピンを差し込み、ワリピンで止めてください。



(2) ギャング角の切替え

ギャング角を耕うん時（27°）に切替えます。固定ボルト（M14）を外して、ギャングリンクを27° に合わせて締付けます。



ジョイントの取付準備（日農工標準 3 P ヒッチ）

取扱上の注意

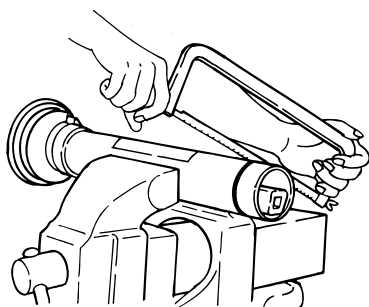
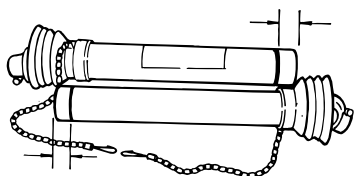
長過ぎるジョイントを装着しますとトラクタの P T O 軸と作業機の入力軸を突き上げて破損させます。又、短かすぎますと、ジョイントのカミ合わせが不足してチューブが破損します。

お願い

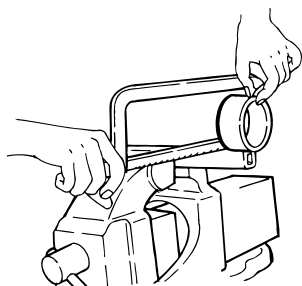
標準のジョイントがトラクタによっては、長い場合があります。トラクタ別装着表（P38～46）を参照し、切断長さの確認の上、チューブとセフティカバーのオス側メス側を切断してください。

1 切断方法

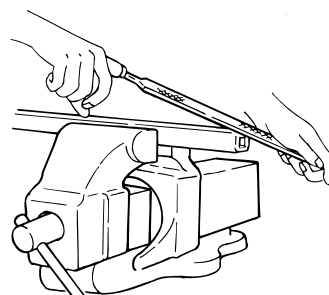
1. 長い分だけセフティカバーをオス、メス両方切りとります。



2. 切りとったセフティカバーと同じ長さでチューブをオス、メス両方切断します。



3. 切り口をヤスリでなめらかに仕上げ、切り粉を取除き、グリスを塗布して、オス、メスを組み合わせます。

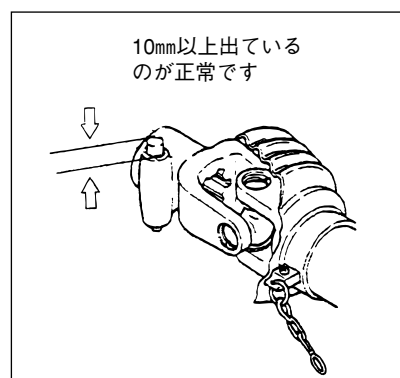


4. ジョイント切断時にセフティカバーを外した場合は、必ずジョイントに外したセフティカバーを取付けてください。

2 取付方法

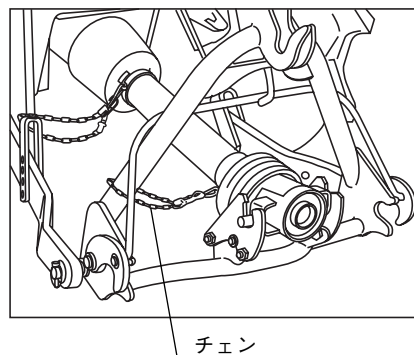
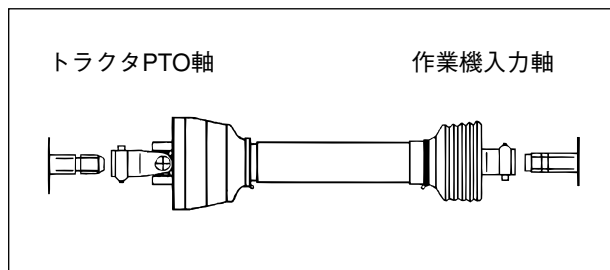
1. ジョイントのノックピンを押しながら軸に挿入、軸の溝にノックピンをはめ込み抜け止めをします。ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。

ピンの「頭が10mm以上」出ているか、トラクタ側と作業機側のノックピンを確認してください。



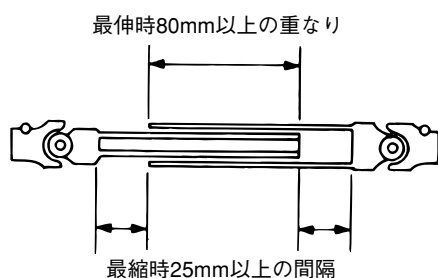
2. 広角ジョイントの取付方法

3セットの時に、広角ジョイントを取付ける場合には、必ず広角側をトラクタ側PTO軸に取付けてください。



3 長さの確認

1. トラクタ3点リンクにオートヒッチを取付け、トップリンクの長さを指定の長さに調節してください。
(3セットの場合は、作業機を装着してから次の確認を行います。)
2. 油圧をいっぱいに下げて、4セットジョイントをセットしてください。
3. 徐々に油圧を上げて、ジョイントが縮んだ状態でも、軸を突かないことを確認してください。
4. 油圧を上下してカバーのスキマを確認してください。

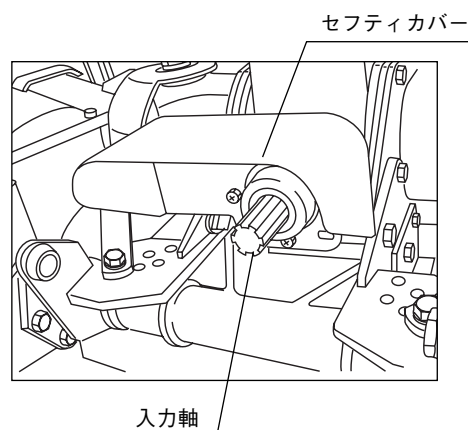


5. ジョイントセフティカバーのチェーンを固定し、回り止めをします。この時油圧をいっぱい下げてもチェーンが緊張しないようにたるみを持たせてください。

4 入力軸セフティカバーの取付け

⚠ 危険

セフティカバーを取外して使用すると、死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。

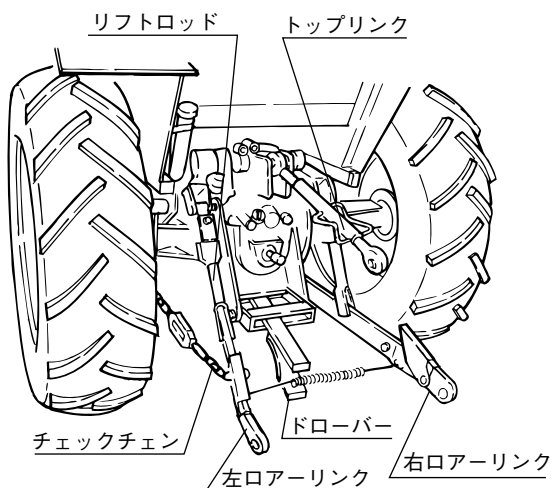


トラクタへの装着（日農工標準 3Pヒッチ）

1 装着前の準備

1. トラクタの準備

本機の装着方法は標準 3 点リンク式のヒッチです。もしトラクタに特殊 3 点リンク式のロータリーを装着されている場合は、トップリンクブラケットを外し、トップリンクを標準 3 点リンク用の長いトップリンクと付け替えてください。又、ドローバーがジョイントに干渉する場合は、ドローバーの位置を変えるか取外してください。

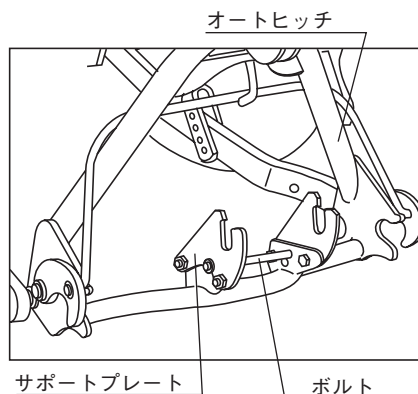


取付位置は、本書のトラクタ別装着表（P38～46）を参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認、取付けてください。

2. オートヒッチの準備

4 セットで使用する場合は、オートヒッチアームにジョイントをセットするサポートプレート、及び、ボルトが確実に取付けてあることを確認してください。

3 セットの場合はサポートプレート、ボルトがないことを確認してください。

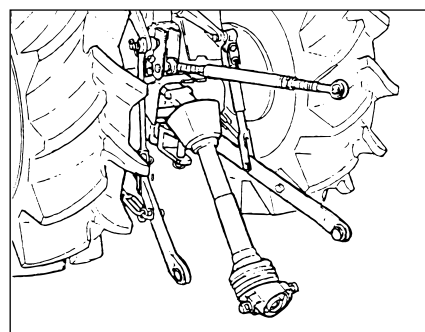


3. オートヒッチの取付け

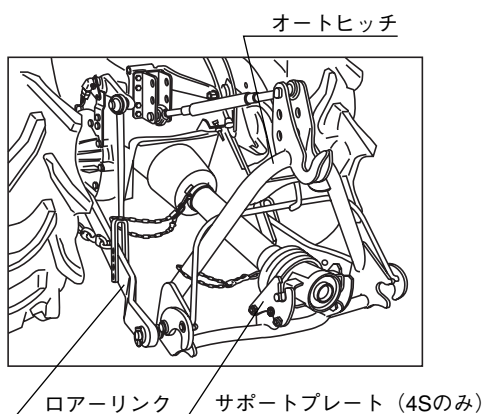
⚠ 注意

トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、P T O 軸への動力の伝導が切れていることを確認してから作業してください。

- ① トラクタのポジションコントロールレバーを下げ、ロアーリンクをいっぱいまで下げます。



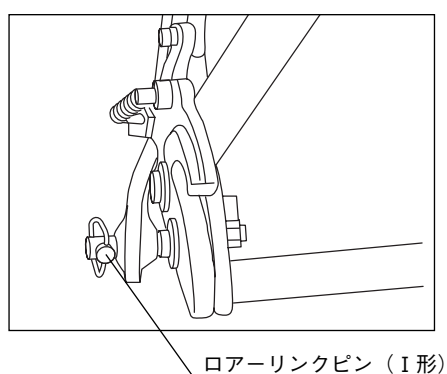
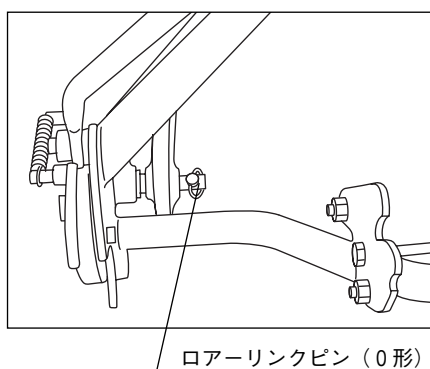
- ② オートヒッチをトラクタのトップリンクに取付けます。
トップリンクピンは、トラクタの付属品を使用してください。



- ③ 左右のロアーリンクにオートヒッチのヒッチピンを取付けてください。トラクタの3点リンク規格により、内側セットと外側セットがありますので規格に合わせてセットしてください。

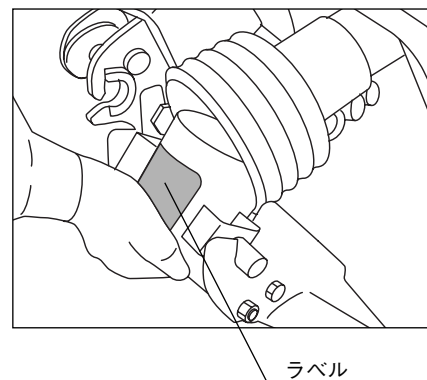
J I S 0 内側セット

J I S I 外側セット

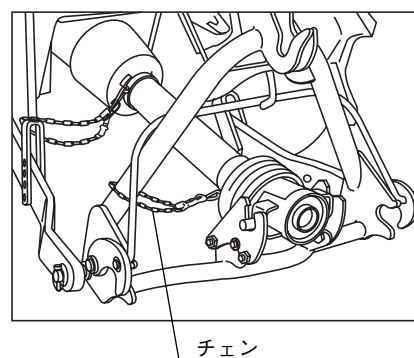


トラクタのPTO軸にジョイントの広角側を取付けます。

- ④ ジョイントのラベル面を上にし、手でジョイントを折り曲げ、軸の細い部分からサポートプレートの長穴にセットしてください。(4セットのみ)



- ⑤ ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをしてください。



- ⑥ チェックチェンを張ってオートヒッチをトラクタの中心部に合わせてください。又、ロアーリンクの左右の高さも均等にしてください。

⚠ 注意

装着が終わりましたら、各部の止めピンやトップリンクピンの抜け止めが確実になされていることを確認してください。

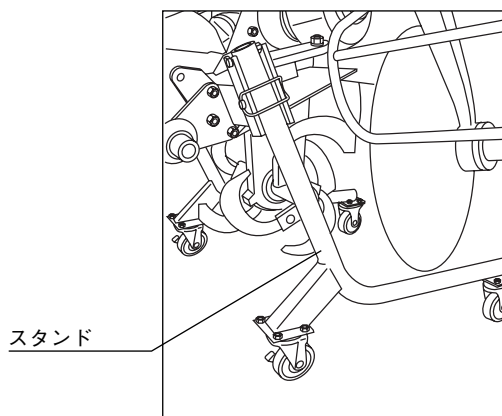
2 トラクタへの装着

▲ 注意

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間に入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は互いに合図しあって作業をしてください。

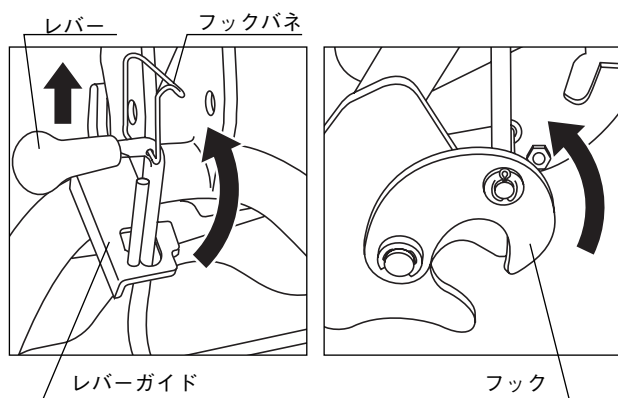
1. 作業機を装着姿勢にします

スタンドを取付けてください。



2. オートヒッチフックのロックの解除

装着前に、フックバネをを起こしてロックを解除し、レバーを真上に引き上げレバーの凸部をレバーガイドに引っ掛けて、フックを開いておきます。



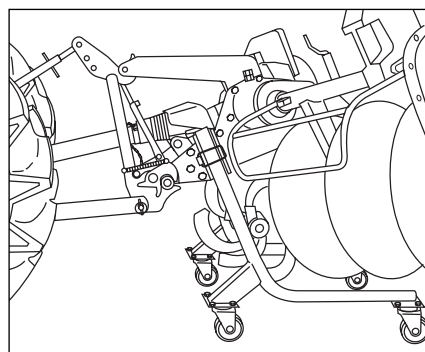
3. 取付け

・バックしてヒッチを合わせる

トラクタのPTOの変速はニュートラルにしておいてください。

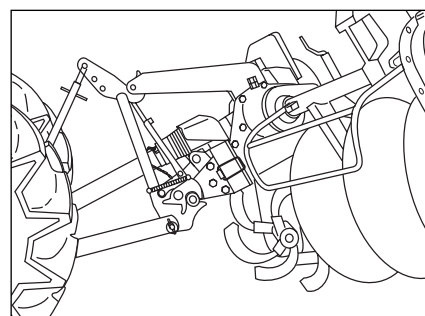
オートヒッチを下げ、トラクタをゆっくり作業機に近づけ、作業機のマスト先端とオートヒッチのトップを合わせます。

この時トラクタと作業機が直角になるようにしてください。



4. フックを合わせてリフトアップ

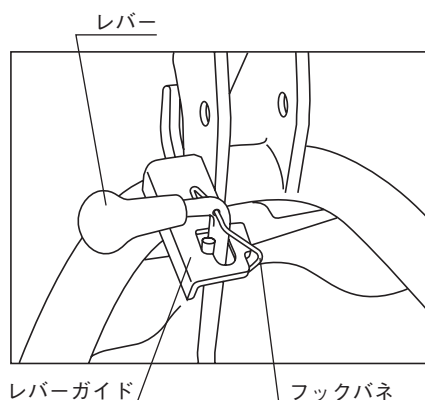
ポジションコントロールレバーを「上げる」にして、作業機をゆっくりとリフトアップすると、オートヒッチのローアフックとジョイントのクラッチ部は自動的に接続、ロックされます。ジョイントが噛み合わなかったりした場合は、ポジションコントロールレバーを下げて一度前進、再度最初からやり直してください。



5. フックを閉じてロック

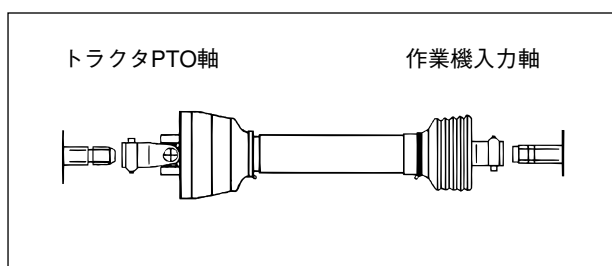
オートヒッチアームのフック部に作業機のガイドカラーが両側とも入っていることを確認してから、オートヒッチアームのレバーを上げてフックを閉じます。

レバーについているフックバネをレバーガイドに引っ掛けて、不用意に作業機が外れないように確実にロックしてください。



6. 広角ジョイントの取付方法

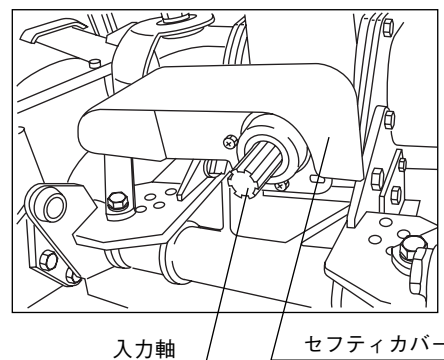
3セットの時に、広角ジョイントを取付ける場合には、必ず、広角側をトラクタ側PTO軸に取付けてください。



ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。このとき作業機をいっぱい下げてもチェンが緊張しないようにたるみを持たせてください。

⚠ 危険

セフティカバーを取外して使用すると、死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。



8. スタンドは取外してください。

取扱上の注意

1. 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
2. トラクタによっては、スイッチ一つで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手で干渉の有無を確認してから使用してください。
又、作業機が勢いよく上がるため10cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
3. ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
4. トップリンクやローアリンクの取付位置、及びリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
5. 左右の水平調節についても注意してください。

3 装着後のトラクタとの調整

1. チェックチェーンの調整（左右の振れ）

作業機を持ち上げた状態で、作業機の入力軸とトラクタのPTO軸を合わせて、左右の横振れを確認して、横振れが10mm以内になるように、左右均等にチェックチェーンを張ってください。

2. トップリンクの調整（前後の傾き）

トップリンクは、トラクタ別装着表（P38～46）を参照に調整してください。

⚠ 注意

トップリンクの調整は、作業機を接地させて行ってください。トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり、危険です。

3. リフトロッドの調整（左右の水平）

作業機を持ち上げ、後方より見て左右が水平になるように、トラクタのレベリングハンドル、又は、油圧スイッチを操作し、調整してください。

4. ジョイントの異音について

ジョイントは作業機の入力軸とが直線に近いほど異音は少なくなります。

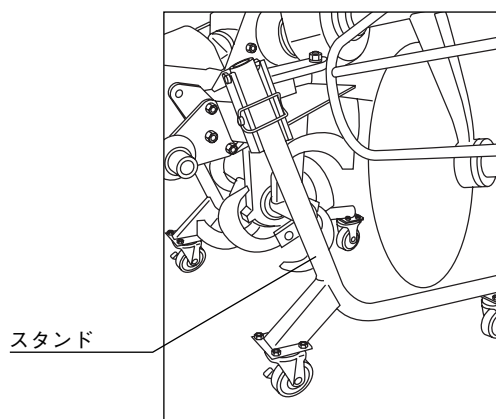
4 トラクタからの取外し

⚠ 注意

作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、装着のためのスペースが十分とれる所で行ってください。

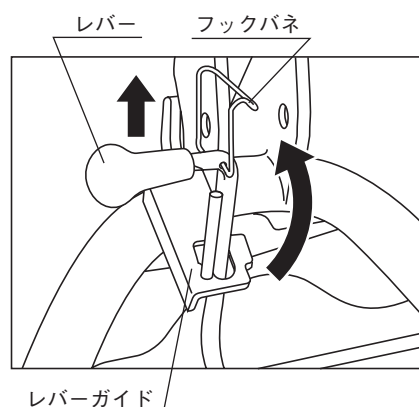
1. スタンドの取付け

作業機を持ち上げてスタンドをロックピンで固定してください。



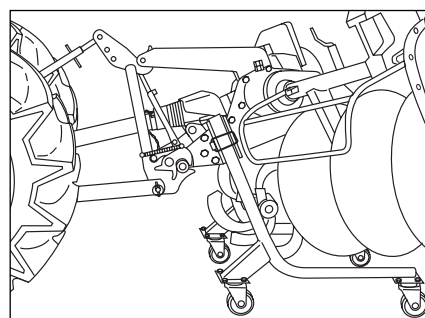
2. オートヒッチフックのロックの解除

作業機をリフトアップしてから、フックバネを起こしてロックを解除し、レバーを真上に引き上げてレバーの凸部をレバーガイドに引っ掛けて、フックを開きます。



3. 作業機を下げる

ポジションコントロールレバーを「下げる」にして、作業機を下げるとローアーク部は外れます。次にポジションコントロールレバーを下げながらトラクタをゆっくり前進させると作業機は外れます。



- ◆外れない場合は、場所が平坦でないとか、トラクタがまっすぐ前進していないなどの原因がありますので、再度動作をやり直してください。

トラクタへの装着（日農工特殊 3P ヒッチ）

トラクタに装着されている純正ロータリーと同様の手順で、作業機を取付け、取外しができます。又、純正ロータリーのオートヒッチ、トップリンク、ジョイントがそのまま使用できます。

- ◆メーカーによりオートヒッチの呼び名が異なりますので注意してください。

1 トラクタへの装着

▲ 注意

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間には人が入らによう注意してください。
4. 二人作業の場合は互いに合図しあって作業をしてください。

1. トラクタの準備

ロアーリンク、リフトロッドは、純正ロータリーと同じ位置（特 3 P）で、又、オートヒッチはロアーリンクに取付けた状態で本作業機は装着できます。

2. 作業機の準備

スタンドを取付けてください。

3. トラクタへの装着

トラクタにより、装着手順が異なります。お手持ちの、トラクタ及び、純正ロータリーの取扱説明書に従って装着してください。

▲ 危険

セフティカバーを取外して使用すると、死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。

▲ 注意

作業が終わって作業機を取外すまでは、オートヒッチのロックレバーには絶対に手を触れないでください。ロックが解除し作業機が外れます。

取扱上の注意

1. 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
2. トラクタによっては、スイッチ一つで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。
又、作業機が勢いよく上がるため10cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
3. トップリンクやロアーリンクの取付穴位置、及びリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
4. 左右の水平調節についても注意してください。

2 トラクタからの取外し

⚠ 注意

作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、装着のためのスペースが十分とれる所で行ってください。

1. 作業機の準備

スタンドを取付けてください。

2. 取外し

純正ロータリーの取扱説明書に従い同様な手順で取外してください。

作業前の点検

作業機の正常な機能を発揮させるため、又、故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。下記の始業点検は毎日欠かさず行ってください。

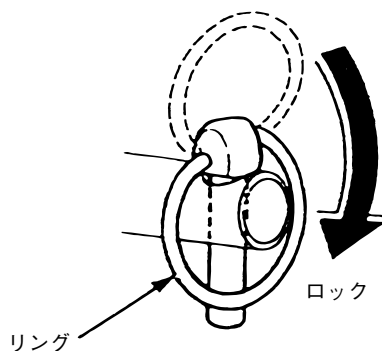
⚠ 注意

1. 点検は平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. トラクタのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
3. 作業機を地面におろしてから行ってください。作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、油圧をロックし、落下防止をするとともに、台などを耕うん軸の下に置き、作業機が絶対落下しないようにしてから行ってください。

① 各部のボルト・ナットのゆるみ

各部のボルト・ナット類に緩みはないか、増し締めしながら点検してください。特に耕うん爪取付ボルトは緩み易いので点検が必要です。尚、新品の場合は使用1時間で点検を行ってください。

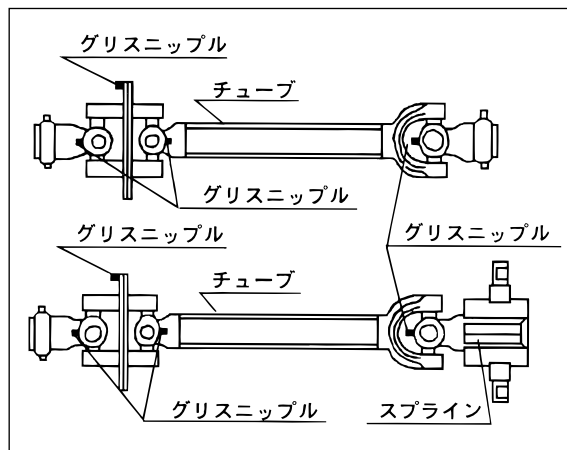
又、ピン類も全てそろっていることを確認してください。又、リンチピンのリングが確実にロックされていることを確認してください。



② ジョイントへのグリスアップ

ジョイントの各部にグリスアップしてください。

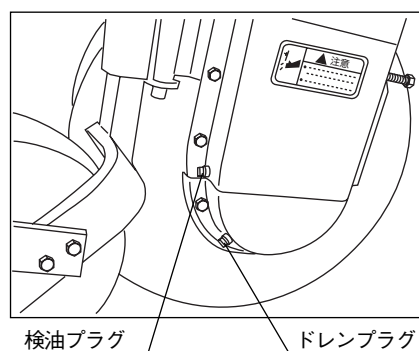
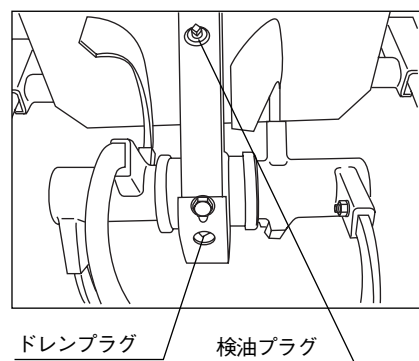
- ① グリスニップル
- ② スプライン



③ ギヤーケース（センターケース）、チェンケースのオイル量

ギヤーケース、チェンケースのそれぞれ、後部に検油プラグがありますので、プラグをゆるめて、オイルがあるか確認してください。

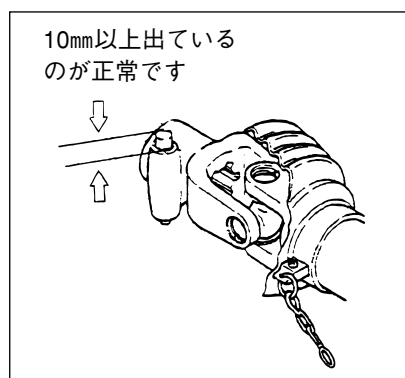
プラグ面よりオイルが少ない場合は、プラグ面まで、補給してください。（ギヤーオイル#90）



点検するときは、ディスクローターをトラクタに装着したまま水平な地面において行ってください。

4 ジョイントのノックピン

ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。ピンの「頭が10mm以上」出ているか、トラクタ側、作業機側のノックピンを確認してください。



5 空転、暖機運転

作業前には空転させ、各部より異音が発生していないか確認してください。

又、暖機運転を5～10分行ってください。

移動、圃場への出入り

⚠ 警告

1. 移動の際は、作業機を持ち上げ、油圧ロックをし、作業機の回転を止めてください。
又、チェックチェーンも確実に張れているか確認してください。
2. トラクタへの積み込み、坂の登りに、トラクタの前輪が浮き上がるとハンドルが利かず危険です。フロントウエイトを着けて作業機を下げて登ってください。
3. 前後、左右に気をくばり、安全を確認しながら走行してください。高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。

4. 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げて、畦や段差に対して直角に進んでください。畦畔が高い時は、丈夫で滑り止めのあるアユミ板を使用し、傾斜角が14度以下になるようにしてください。

上手な作業の仕方

▲ 注意

1. 運転中は危険ですから、トラクタ及び作業機の周囲には、補助作業員や、他の人を絶対に近づけないようにしてください。
2. 作業機を調整、整備する場合や、爪軸等への草、ワラのからみ付きを取り除く場合は必ず、トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、PTO軸への動力の伝達が切れていることを確認した上で行ってください。
3. 畦畔での作業は、作業機を畦に引っかけないように、ゆっくりと注意して行ってください。
4. 傾斜地での急旋回は転倒の危険があります。ゆっくりと注意して行ってください。

1 各装置の働きと操作のしかた

1. ギヤング角度の調整について

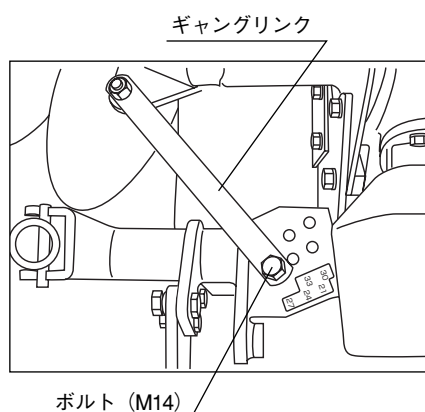
ギヤング角度は、作業目的（反転うね盛り耕うん、うね戻し耕うん）と圃場条件によって調整します。

ギヤング角度	作業目的	うね形状
21°	うね戻し耕うん	平うね
27°	反転うね盛り耕うん(標準)	標準
30°	反転うね盛り耕うん	中高うね

ディスクが摩耗し、反転性が悪くなったときは、ギヤング角度を30°、33°に大きくして使用します。

2. ギヤング角度の切替え方

- ① ディスクローターを上げて機体を水平にします。
- ② ギヤング角度の固定ボルト（M14）を一旦外し、片方はゆるめます。
- ③ 目的のギヤング角度にギヤングリンクを合わせてボルトをしっかりと締付けます。



▲ 注意

ギヤング角の調整は作業機をトラクタに装着し、作業機を水平にして行ってください。

取扱上の注意

1. ギヤングリンクの固定ボルトは2個共必ずしっかりと締付けてください。
2. ギヤング角度を調整範囲の21°～33°以外で駆動、回転させると、機械を破損させる原因になります。

3. ウェイトについて

ウェイトは圃場の条件に合わせて適時取付けてください。

- ① ディスクローターのウェイトは圃場が硬くて、ディスクのささが悪く、耕深がとれない場合に取付けます。
- ② ディスクローターのウェイトは、1個20kgです。
- ③ ウェイトは、2個又は4個取付けできます。

4. ウエイトの取付け標準

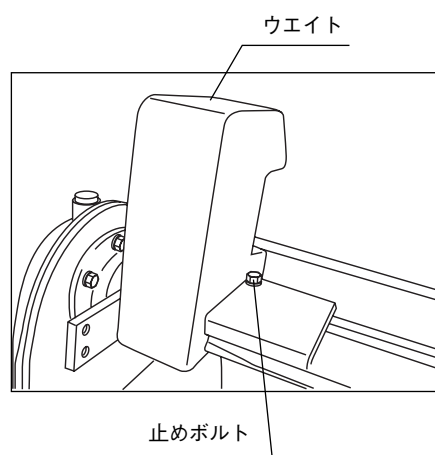
次の表は、圃場の条件とトラクタ仕様によるウエイトの取付け標準です。

圃 場	湿 田 の 場 合	
ト ラ ク タ 仕 様	2 輪 駆 動	4 輪 駆 動
ト ラ ク タ 前 部	0 ～ 80 kg	0 ～ 60 kg
ディスクローター	—	—

圃 場	乾 田 の 場 合	
ト ラ ク タ 仕 様	2 輪 駆 動	4 輪 駆 動
ト ラ ク タ 前 部	0 ～ 80 kg	0 ～ 60 kg
ディスクローター	0 ～ 40 kg	0 ～ 40 kg

5. ウエイトの取付け方

- ① ウエイトの止めボルト（M10）を一旦外します。
- ② ウエイトを内側よりウエイト座に差し込みます。
- ③ 外したボルトを締付けてウエイトの外れを止めてください。



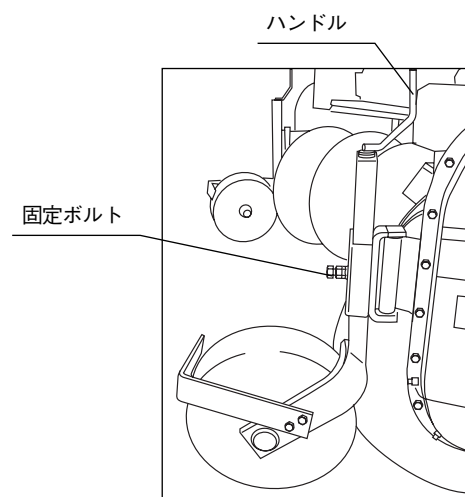
取扱上の注意

ウエイトは必ず左右同じ個数を取付けてください。

6. 耕深調節

耕深調節は、左右の尾輪のハンドルを回して行います。

- ① 押ボルト（M12）をゆるめる。
- ② ハンドルを回し、貼付している耕深ラベルの目盛を参考に左右同じ深さに調節します。
- ③ 押ボルトを締付け、尾輪を固定します。



2 作業速度とディスク回転数

1. 作業速度

作業目的と圃場の条件に合わせて車速を決めてください。

次の作業速度は、目安として参考にしてください。

作 業 目 的	圃 場	作 業 速 度
反 転 う ね 盛 り 耕 う ん	乾 田	1.5 ～ 3.0 km/h
	湿 田	1.5 ～ 2.0 km/h
う ね 戻 し 耕 う ん		2.0 ～ 3.0 km/h

2. ディスク回転数

トラクタのPTO回転数は、PTO変速の1速で作業します。

取扱上の注意

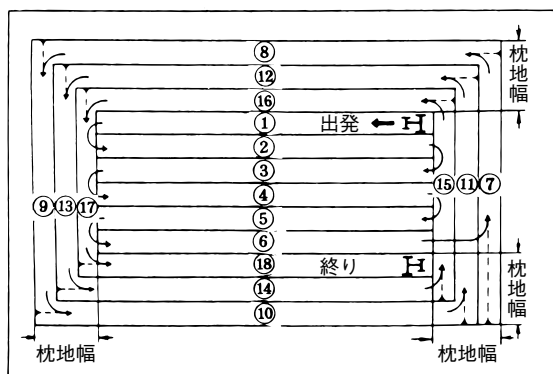
1. P T O の回転数は2速以上を使用しても馬力をとり、ディスクの摩耗を早めることになります。
2. 逆転での作業はしないでください。

3 耕うん方法

ディスクローター耕うんの反転うね盛り耕うんは、隣接耕うんで行います。

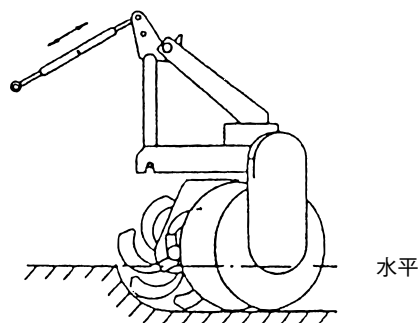
1. 圃場の回り方

- ① 図の長方形部分1枚が直進1回で耕うんされる耕作地を示しています。
- ② 図のような順序をとるのは、1度耕うんしたところを後輪タイヤで押えないための方法です。
- ③ 従って出発点は、トラクタが最後に外へ出る場所によって決まります。
- ④ 直進が終わって、次の直進に移るまでは、作業機を上げて旋回してください。
- ⑤ 作業開始と外周の回り耕に移る位置は、作業機の耕幅の約2.5倍（実質3回耕うん幅）を枕地として残します。
- ⑥ 反転うね盛り耕うんのギャング角度は、 27° （標準）で行います。



2. 耕うん時の調整

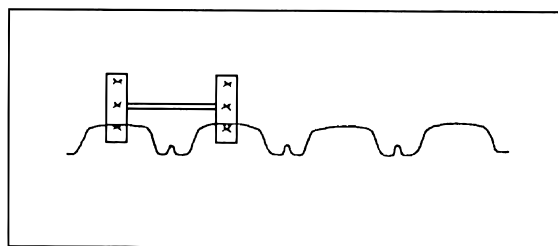
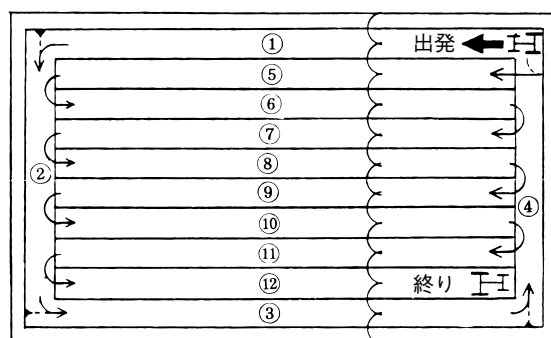
図のように、耕うん時にディスクローターが水平（地ケースが地面に垂直）になるようにトップリンク（タンバクル）長さを調整してください。



3. うね戻し耕うん

図のように、反転うね盛り耕うんの後に、うね間耕うんをしてうね戻しを行います。

- ① まず、外周のうね間を回り耕で1回行います。
- ② 次に、うね間を往復耕でうね戻しをしています。
- ③ うね戻しのギャング角度は、 21° で作業します。



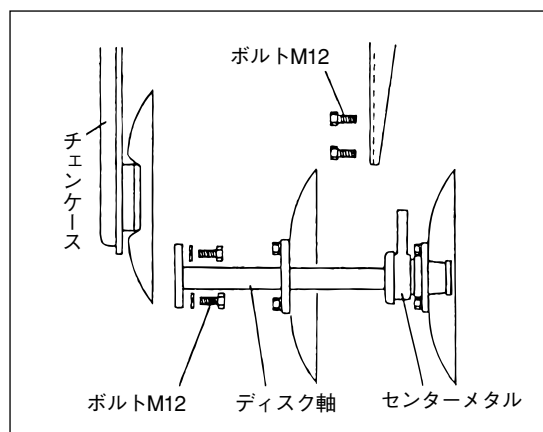
ディスク交換の仕方

⚠ 注意

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした所で行ってください。
2. トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、油圧ロックを行い、かつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。
3. ディスクの刃部は大変鋭利ですので、取扱いには十分注意してください。
4. 作業は丈夫な手袋を着用して行ってください。

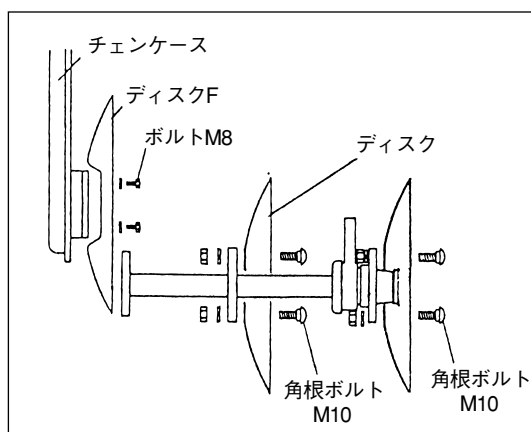
1 ディスク軸の取外し

- ① チェンケース側のディスク取付ボルト (M12) を 4 本外します。
- ② センターメタル取付ボルト (M12) を 2 本外して、ディスク軸を切離します。



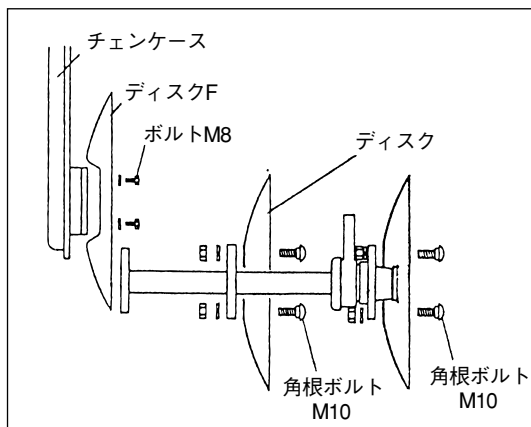
2 ディスクの取外し

- ① ディスクFの取外しは、ボルト (M8) を 2 本外して取り出します。
- ② 内側のディスク取外しは角根ボルト (M10) を 3 本外して、3 角フランジを通して取り出します。



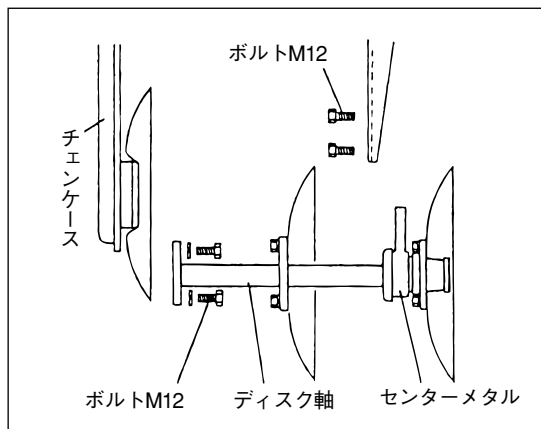
3 ディスクの取付け

- ① ディスクFは、ボルト (M8) 2 本で取付けます。このとき、ボルト穴 (M12) 4 箇所を合わせておきます。
- ② 内側のディスクをディスク軸の取付けフランジ内側へ角根ボルト (M10) 3 本で締付けます。



4 ディスク軸の取付け

- ① ディスク軸の取付けは、チェーンケース側を先に取付けます。
- ② 次にセンターメタルを取付けます。このとき調整シムが取付けてあるときは、必ずはさみ込んで締付けてください。



3. 爪軸の組み込みについて

右側の爪軸が、回転方向に向かって、左側の爪軸より60°先行するように組み込んでください。

取扱上の注意

1. 爪の配列を誤りますと、異常な振動が発生したり、又、仕上がりが悪くなったりしますので注意してください。
2. 爪はしっかりと締め付けてください。新しく交換した場合は、緩み易いので作業1時間で増し締めをしてください。

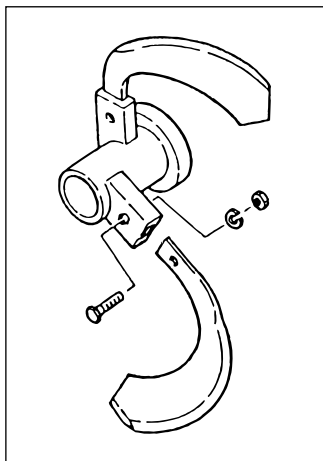
5 耕うん爪の取付け

1. 耕うん爪の種類と本数

品 名		規 格	本 数
シルバー爪	右	K2545R	3
	左	K2545L	3
爪取付ボルト		M10×25 P1.25 8T	6

2. 耕うん爪の取付方法

爪取付方向は、ブラケットの六角穴と同じ方向に曲がりがるようにして、ボルトで締付けてください。



保守・点検

機械を長持ちさせるためには、普段の保守・点検が大切です。

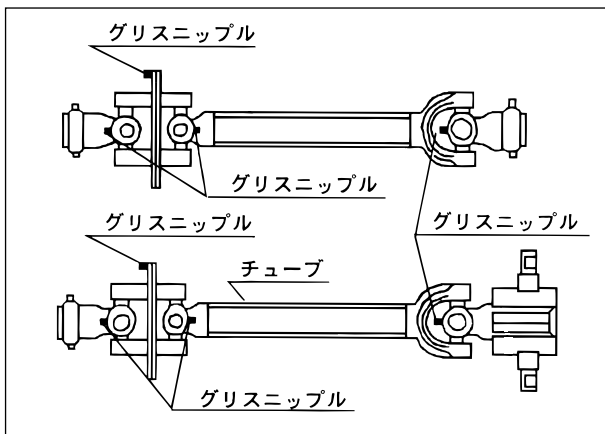
▲ 注意

トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、油圧ロックを行い、かつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。

1. 作業終了後は、きれいに水洗いを行い、水分を拭き取っておいてください。

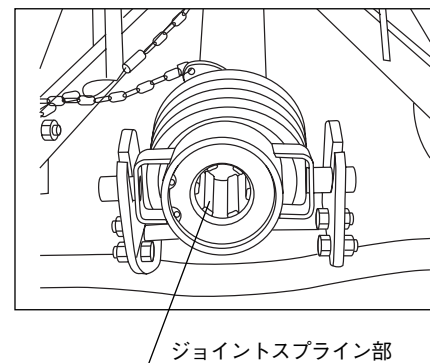
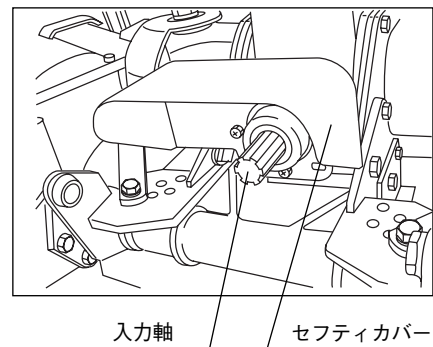
2. グリスの給油

- ① ジョイントは分解して、スリーブのかみ合い部分にグリスを塗布してください。
又、同時にグリスニップルの部分にも適量注入してください。
- ② トラクタのPTO軸と作業機の入力軸へもグリスを塗布し、格納する場合はキャップをかぶせて、サビないようにしてください。



取扱上の注意

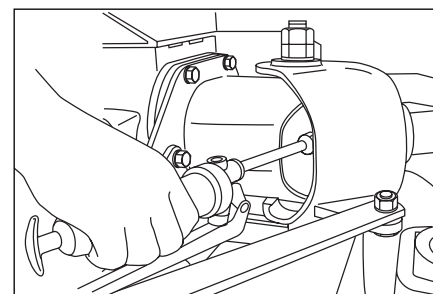
特に4セットジョイントの場合は、スプライン部がサビたりキズついたりしますと、装着ができなくなりますので、必ず掃除を行いグリスを塗布し、ゴミがかからないようにしてください。



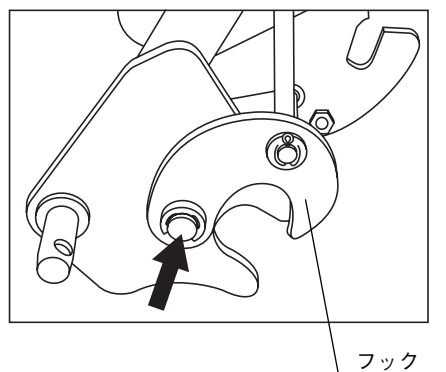
③ 駆動ジョイント

ジャーナルのグリスニップルにベアリンググリスを適量注入してください。

(左右各1箇所)



- ④ オートヒッチのフックの支点部分にオイルを適量塗布してください。

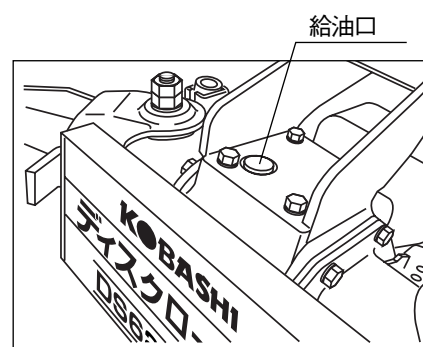
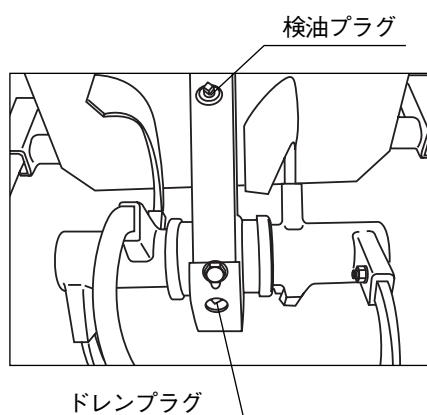


3. 給油と交換

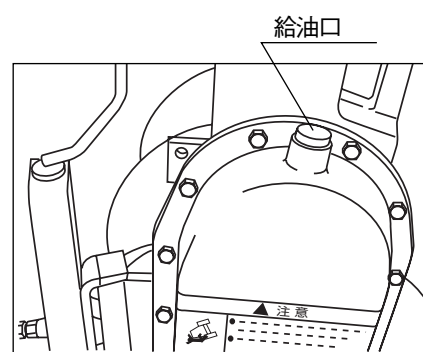
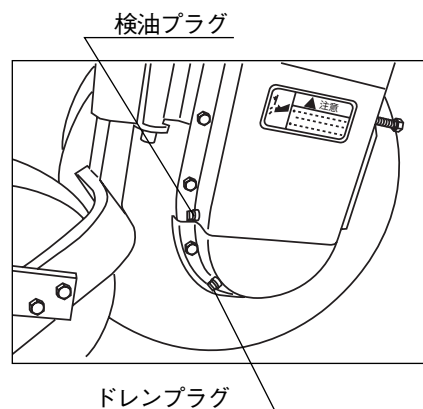
下記の基準で実施してください。

点検項目	種 類	オイル 量	交換時間	
			1 回目	2 回目
ギヤーケース (センターケース)	ギヤーオイル #90	1.0 ℓ	50時間	100 時間毎
チェンケース	ギヤーオイル #90	0.6 ℓ	50時間	100 時間毎

- ① ギヤーケース（センターケース）のオイル交換
ドレンプラグを外してオイルを出します。
オイルが抜けたらドレンプラグをしっかりと締めつけてください。
ギヤーオイルを給油口から規定量（1.0 ℓ）
入れてください。



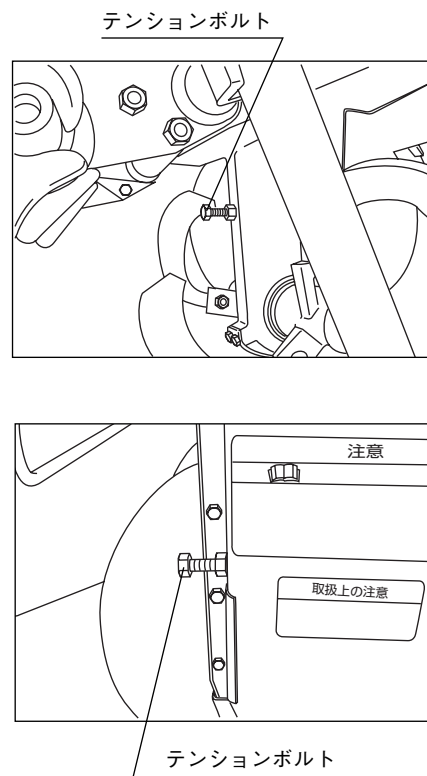
- ② チェンケースのオイル交換
ドレンプラグを外してオイルを出します。オ
イルが抜けたらドレンプラグをしっかりと締
めつけてください。ギヤーオイルを給油口か
ら規定量（0.6 ℓ）入れてください。



4. チェンテンションナの調整

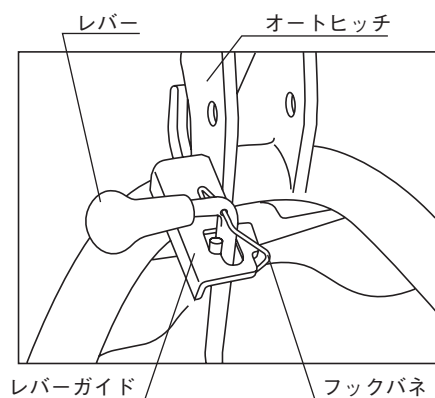
ディスクローターのチェンテンションナは、センターケースとチェンケース（左右）の3箇所あります。

- (1) テンションボルトを締込み、回転音が一番少ない箇所でロックします。
 - ・チェンがゆるむ……………騒音の原因となる
 - ・張り過ぎ……………発熱の原因となる
- (2) チェンテンションナの調整は、初期10時間、その後150時間毎に行ってください。



保管・格納

1. 平坦で地盤のしっかりした、屋根のある場所に格納してください。
2. オートヒッチアームを作業機に取付けて保管する場合は、必ず落下防止のフックバネをレバーガイドに引っ掛けて、不用意にオートヒッチアームが外れないように確実にロックしてください。



3. 格納後は、みだりに子供などが触れないような処理をしてください。

主要諸元

型 式		DS426T			DS626T		
		—0S	—3S	—4S	—0S	—3S	—4S
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1256	1434	1434	1480	1658	1658
	全 幅 (mm) (ギヤング角27°)	1610	1610	1610	2110	2110	2110
	全 高 (mm)	1166	1166	1166	1225	1225	1225
機 体 質 量 (kg)		306.8	337.8	347.8	375.8	406.8	416.8
適 応 ト ラ ク タ		(KW)	13.2～17.7			17.7～23.5	
		(PS)	18～24			24～32	
装 着 装 置 の 種 類		日 農 工 標 準 3 P 0 ・ I 形					
入 力 軸 回 転 速 度 (rpm)		540					
デ ィ ス ク 駆 動 方 式		サ イ ド ド ラ イ ブ					
デ ィ ス ク 枚 数 (枚)		4			6		
デ ィ ス ク 径 (cm)		56					
デ ィ ス ク 回 転 数 (rpm)		102					
中 央 処 理 方 式		セ ン タ ド ラ イ ブ					
爪 本 数		K2545L…………… 3 本, K2545R…………… 3 本					
爪 回 転 径 (cm)		46					
爪 軸 回 転 数 (rpm)		168					
ギ ャ ン グ 角 度 (度)		21, 24, 27, 30, 33 (標準27)					
ギヤング角調節方式		ボ ル ト 止 め					
標 準 耕 幅 (cm) (ギヤング角27°)		148			198		
標 準 作 業 速 度 (km/h)		1.5 ～ 3					
作 業 能 率 (分/10a)		18 ～ 36			14 ～ 27		
標 準 耕 深 (cm)		10 ～ 20					
耕 深 調 節 機 構		後 ホ イ ル ゲ ー ジ 輪					
オ プ シ ョ ン		ウエイト 40kg, 80kg			ウエイト 40kg		

※この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

主要諸元

型 式		DS426	DS626
		—S	—S
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1426	1650
	全 幅 (mm) (ギヤング角27°)	1610	2110
	全 高 (mm)	1166	1225
機 体 質 量 (kg)		316.5	385.5
適 応 ト ラ ク タ	(KW)	13.2～17.7	17.7～23.5
	(PS)	18～24	24～32
装 着 装 置 の 種 類		日 農 工 特 殊 3 P A I 形	
入 力 軸 回 転 速 度 (rpm)		540	
デ ィ ス ク 駆 動 方 式		サ イ ド ド ラ イ ブ	
デ ィ ス ク 枚 数 (枚)		4	6
デ ィ ス ク 径 (cm)		56	
デ ィ ス ク 回 転 数 (rpm)		102	
中 央 処 理 方 式		セ ン タ ド ラ イ ブ	
爪 本 数		K2545L………… 3 本, K2545R………… 3 本	
爪 回 転 径 (cm)		46	
爪 軸 回 転 数 (rpm)		168	
ギ ャ ン グ 角 度 (度)		21, 24, 27, 30, 33 (標準27)	
ギヤング角調節方式		ボ ル ト 止 め	
標 準 耕 幅 (cm) (ギヤング角27°)		148	198
標 準 作 業 速 度 (km/h)		1.5～3	
作 業 能 率 (分/10a)		18～36	14～27
標 準 耕 深 (cm)		10～20	
耕 深 調 節 機 構		後 ホ イ ル ゲ ー ジ 輪	
オ プ シ ョ ン		ウエイト 40kg, 80kg	ウエイト 40kg

※この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

主要諸元

型 式		DS426	DS626
		—T	—T
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1426	1650
	全 幅 (mm) (ギヤング角27°)	1610	2110
	全 高 (mm)	1166	1225
機 体 質 量 (kg)		316.5	385.5
適 応 ト ラ ク タ	(KW)	13.2～17.7	17.7～23.5
	(PS)	18～24	24～32
装 着 装 置 の 種 類		日 農 工 特 殊 3 P A II 形	
入 力 軸 回 転 速 度 (rpm)		540	
デ ィ ス ク 駆 動 方 式		サ イ ド ド ラ イ ブ	
デ ィ ス ク 枚 数 (枚)		4	6
デ ィ ス ク 径 (cm)		56	
デ ィ ス ク 回 転 数 (rpm)		102	
中 央 処 理 方 式		セ ン タ ド ラ イ ブ	
爪 本 数		K2545L…………… 3 本, K2545R…………… 3 本	
爪 回 転 径 (cm)		46	
爪 軸 回 転 数 (rpm)		168	
ギ ャ ン グ 角 度 (度)		21, 24, 27, 30, 33 (標準27)	
ギヤング角調節方式		ボ ル ト 止 め	
標 準 耕 幅 (cm) (ギヤング角27°)		148	198
標 準 作 業 速 度 (km/h)		1.5～3	
作 業 能 率 (分/10a)		18～36	14～27
標 準 耕 深 (cm)		10～20	
耕 深 調 節 機 構		後 ホ イ ル ゲ ー ジ 輪	
オ プ シ ョ ン		ウエイト 40kg, 80kg	ウエイト 40kg

※この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

主要諸元

型 式		DS426	DS626
		—U	—U
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1400	1624
	全 幅 (mm) (ギヤング角27°)	1610	2110
	全 高 (mm)	1166	1225
機 体 質 量 (kg)		316.5	385.5
適 応 ト ラ ク タ	(KW)	13.2～17.7	17.7～23.5
	(PS)	18～24	24～32
装 着 装 置 の 種 類		日 農 工 特 殊 3 P B 形	
入 力 軸 回 転 速 度 (rpm)		540	
デ ィ ス ク 駆 動 方 式		サ イ ド ド ラ イ ブ	
デ ィ ス ク 枚 数 (枚)		4	6
デ ィ ス ク 径 (cm)		56	
デ ィ ス ク 回 転 数 (rpm)		102	
中 央 処 理 方 式		セ ン タ ド ラ イ ブ	
爪 本 数		K2545L…………… 3 本, K2545R…………… 3 本	
爪 回 転 径 (cm)		46	
爪 軸 回 転 数 (rpm)		168	
ギ ャ ン グ 角 度 (度)		21, 24, 27, 30, 33 (標準27)	
ギヤング角調節方式		ボ ル ト 止 め	
標 準 耕 幅 (cm) (ギヤング角27°)		148	198
標 準 作 業 速 度 (km/h)		1.5～3	
作 業 能 率 (分/10a)		18～36	14～27
標 準 耕 深 (cm)		10～20	
耕 深 調 節 機 構		後 ホ イ ル ゲ ー ジ 輪	
オ プ シ ョ ン		ウエイト 40kg, 80kg	ウエイト 40kg

※この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

主要諸元

型 式		DS426	DS626
		—MU	—MU
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1400	1624
	全 幅 (mm) (ギヤング角27°)	1610	2110
	全 高 (mm)	1166	1225
機 体 質 量 (kg)		316.5	385.5
適 応 ト ラ ク タ	(KW)	13.2～17.7	17.7～23.5
	(PS)	18～24	24～32
装 着 装 置 の 種 類		日 農 工 特 殊 3 P B 形	
入 力 軸 回 転 速 度 (rpm)		540	
デ ィ ス ク 駆 動 方 式		サ イ ド ド ラ イ ブ	
デ ィ ス ク 枚 数 (枚)		4	6
デ ィ ス ク 径 (cm)		56	
デ ィ ス ク 回 転 数 (rpm)		102	
中 央 処 理 方 式		セ ン タ ド ラ イ ブ	
爪 本 数		K2545L…………… 3 本, K2545R…………… 3 本	
爪 回 転 径 (cm)		46	
爪 軸 回 転 数 (rpm)		168	
ギ ャ ン グ 角 度 (度)		21, 24, 27, 30, 33 (標準27)	
ギヤング角調節方式		ボ ル ト 止 め	
標 準 耕 幅 (cm) (ギヤング角27°)		148	198
標 準 作 業 速 度 (km/h)		1.5～3	
作 業 能 率 (分/10a)		18～36	14～27
標 準 耕 深 (cm)		10～20	
耕 深 調 節 機 構		後 ホ イ ル ゲ ー ジ 輪	
オ プ シ ョ ン		ウエイト 40kg, 80kg	ウエイト 40kg

※この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

主要諸元

型 式		DS426	DS626
		—YB	—YB
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1529	1753
	全 幅 (mm) (ギヤング角27°)	1610	2110
	全 高 (mm)	1166	1225
機 体 質 量 (kg)		316.5	385.5
適 応 ト ラ ク タ	(KW)	13.2～17.7	17.7～23.5
	(PS)	18～24	24～32
装 着 装 置 の 種 類		特 殊 3 P ヤ ン マ ー Y B タ イ プ	
入 力 軸 回 転 速 度 (rpm)		540	
デ ィ ス ク 駆 動 方 式		サ イ ド ド ラ イ ブ	
デ ィ ス ク 枚 数 (枚)		4	6
デ ィ ス ク 径 (cm)		56	
デ ィ ス ク 回 転 数 (rpm)		102	
中 央 処 理 方 式		セ ン タ ド ラ イ ブ	
爪 本 数		K2545L…………… 3 本, K2545R…………… 3 本	
爪 回 転 径 (cm)		46	
爪 軸 回 転 数 (rpm)		168	
ギ ャ ン グ 角 度 (度)		21, 24, 27, 30, 33 (標準27)	
ギヤング角調節方式		ボ ル ト 止 め	
標 準 耕 幅 (cm) (ギヤング角27°)		148	198
標 準 作 業 速 度 (km/h)		1.5～3	
作 業 能 率 (分/10a)		18～36	14～27
標 準 耕 深 (cm)		10～20	
耕 深 調 節 機 構		後 ホ イ ル ゲ ー ジ 輪	
オ プ シ ョ ン		ウエイト 40kg, 80kg	ウエイト 40kg

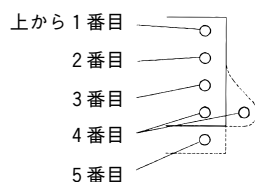
※この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

トラクタ別装着表 (日農工標準 3P Sヒッチ)

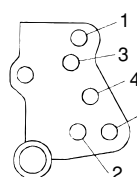
※この表はあくまでマッチング表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で御使用ください。

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC80	
GT 19(J)・21(J)・23(J) T 200・220・240, GT26 T 22	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
GT26J, GT30(J)	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
GT-3・5・8	3	イ	ト	600	A	G	70	70	
X 20・24	3	イ	ト	600	A	G	70	70	
GL 241K・261K・281K GL 240K・260K・280K GL-25K	3	イ	ヘ	620	C	G	50	50	
GL 201・221・241 GL 200・220・240 GL-19・21・23	3	イ	ヘ	640	A	G			
GL 201Q・221Q・241Q GL 200Q・220Q・240Q	1	イ	ヘ	590	C	G			
GL 241J・240J GL 261・277・281 GL 301E・321E GL260・268・280 GL 300ES・320ES GL-23J, GL-L27 GL-25・26・27	3	イ	ヘ	690	A	G			
GL 241JQ・240JQ GL 261C・281C GL 261Q・277Q GL260Q・268Q GL-23JQ, GL-L27Q GL-25Q・26Q・27Q	2	イ	ヘ	650	C	G			
GL 281J・280J GL 301・321 GL 300・320 GL-27J GL-29・32	3	イ	ホ	750	A	G			

トップリンク取付穴

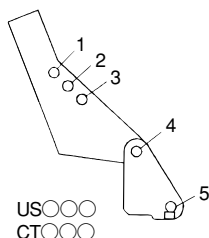
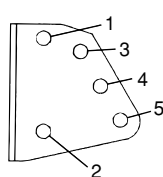


ドラフト仕様

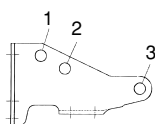


KL36~50

ドラフトなし仕様

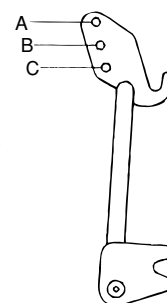
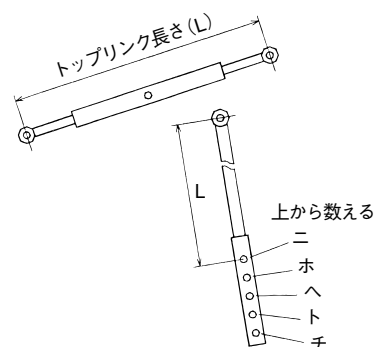


US○○○
CT○○○

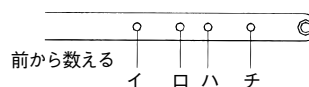


Bb260

トップリンク・リフトロッド調整

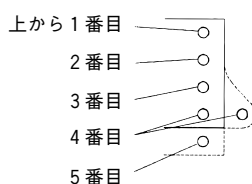


ロアーリンク取付穴

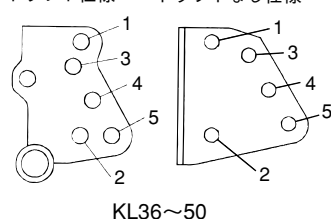


トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC80	
GL 281Q・301Q・321Q GL 280Q・300Q・320Q GL 281JQ・280JQ GL 301C・321C・ GL-27JQ GL-29Q・32Q	3	イ	ホ	740	C	G			
L1-195(Q)・215(Q) L1-185・205 L1-18・20	3	イ	ホ	660	C	G			
L1-235J(Q)	3	イ	ホ	670	B	G			
L1-235(Q)・255(Q) L1-225・245 L1-22・24	3	イ	ヘ	680	A	G			
L1-275J(Q)	3	イ	ホ	750	A	G			
L1-275(Q) L1-265, L1-26	3	イ	ヘ	740	A	G			
L1-295(Q)・315(Q)・325(Q) L1-285, L1-28	3	イ	ニ	750	A	G			
L1-325(Q)ドラフト	4	イ	ニ	710	A	G			
KL 25K・30K	4	イ	ヘ	660	A	G			
KL 25KS・30KS	4	イ	ホ	660	A	G			
KL 21(J)・23(J), KL25	4	イ	ヘ	610	A	G			
KL 27, KL 25NC, KL 25J KL 25HT KL 28rops	4	イ	ヘ	630	A	G			
KL 30(Q)・33(Q)・31(Q) KL 28Q KL 27J	4	イ	ヘ	690	A	G			
KL 21(J)Q・23(J)Q KL 25Q	1	ロ	ヘ	620	A	G			
KL 25-PC, KL 27Q, KL 25NCQ・25HTQ・25JQ	1	イ	ヘ	650	A	G			

トップリンク取付穴

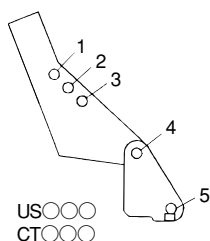


ドラフト仕様

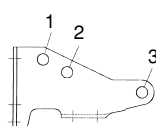


KL36~50

ドラフトなし仕様

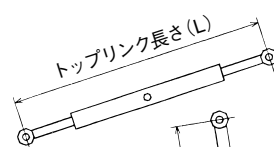


US000
CT000

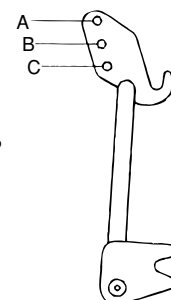
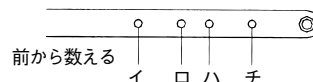


Bb260

トップリンク・リフトロッド調整



ロアーリンク取付穴

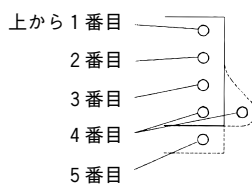


上から数える
ニ
ホ
ヘ
ト
チ

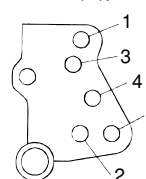
前から数える
イ
ロ
ハ
チ

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備 考
	トップリンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC80	
Bb260	2	ロ	ト	550	A	G			
KT 20(J)・22(J)・24(J) KT 27	3	イ	ト	610	A	G			
KT 27J KT 30(J)	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
AF 210(R)・230(R) AF 250(J)(R) AF 22・24	3	イ	ホ	600	C	G			
AF 210(R)Q・230(R)Q AF 250(J)(R)Q AF 22Q・24Q	1	イ	ホ	570	C	G			ジョイント異音時PTO切
AF 270(J)(R)(Q)・290(J)(R)(Q) AF 26(Q)・28(J)(Q)	3	イ	ホ	700	A	G			
AF 310(J)(R)(Q)	4	イ	ホ	690	A	G			
AF 30(Q)	3	イ	ホ	730	A	G	TC84M に交換	TC90 に交換	
AF 30(J)(Q)R	4	イ	ホ	710	A	G			
F 190・210・230 AF 218・220・222・224	3	イ	ホ	640	A	G			
F 190Q・210Q・230Q AF 218Q・220Q・222Q AF 224Q	1	イ	ホ	600	A	G			
AF 250(Q)・226(Q)	3	イ	へ	640	A	G			
RS 24(Q)・27(Q) RS 30(Q)・33(Q) RS 240(Q)・270(Q) RS 300(Q)	2	イ	ホ	570	A	G			
F-180・200・220 FF 205・225 F(x) 195 F(x) 18	3	ロ	へ	600	A	G	30	30	

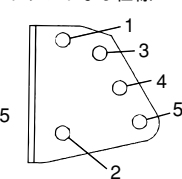
トップリンク取付穴



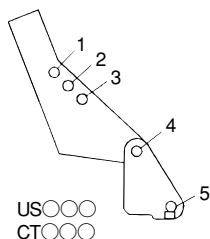
ドラフト仕様



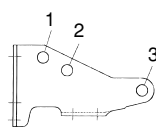
ドラフトなし仕様



KL36~50

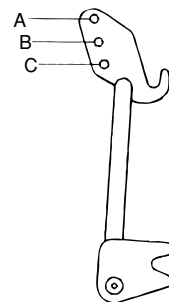
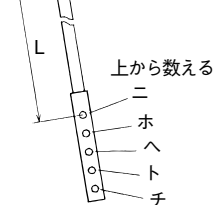
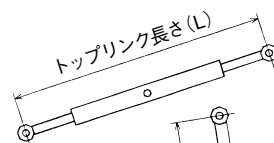


US○○○
CT○○○

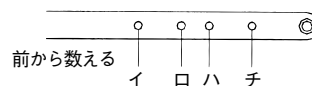


Bb260

トップリンク・リフトロッド調整

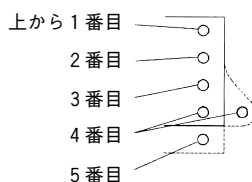


ロアーリンク取付穴

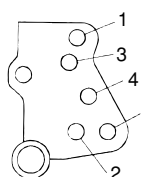


トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC80	
F(x) 215・235・255 F(x) 20・22・24 FF 245	3	イ	ホ	640	C	G			
FX 215M・235M・265M	3	ロ	ヘ	680	A	G			
F(x) 265, FX 30S	3	ロ	ホ	680	A	G			
FX 285, FX 26	3	イ	ホ	570	A	G			
FX 305 FX 28・32	3	イ	ホ	560	A	G			
US 31(Q)	3	イ	ホ	570	A	G	70	70	
US 32(R)(Q)	3	ロ	ホ	600	A	G	50	50	
AF 324M・328M・330M AF 230M・270M・310M AF 22ML・26ML・30ML	3	イ	ホ	600	C	G			高床時の装着
AF 22MH・26MH	3	イ	ホ	700	A	G			
FV 200(Q)・220(Q)	2	イ	ニ	550	A	G	50	50	
FV 230(Q)・250(Q)・270(Q)	2	イ	ホ	550	A	G	50	50	
FV 280(Q)・310(Q)	2	イ	ホ	620	A	G			
AF 322・324・326	3	イ	ヘ	600	C	G			
AF 328・330	3	イ	ヘ	700	A	G			
US 324・328 US 330	2	イ	ホ	560	A	G	50	50	
AF 324M・328M・330M AF 230M・270M・310M AF 22ML・26ML・30ML	3	イ	ホ	640	C	G			低床時の装着

トップリンク取付穴

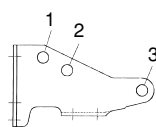
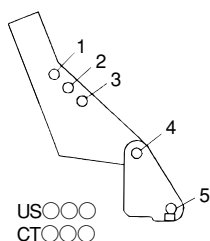
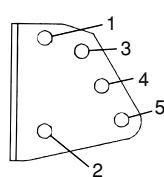


ドラフト仕様



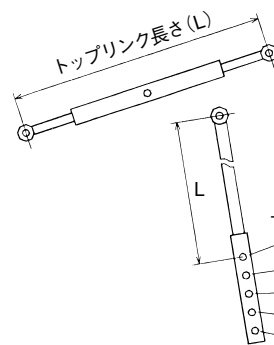
KL36~50

ドラフトなし仕様

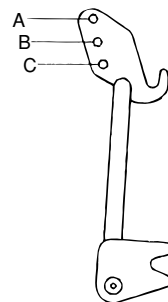
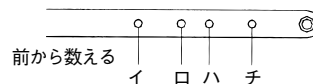


Bb260

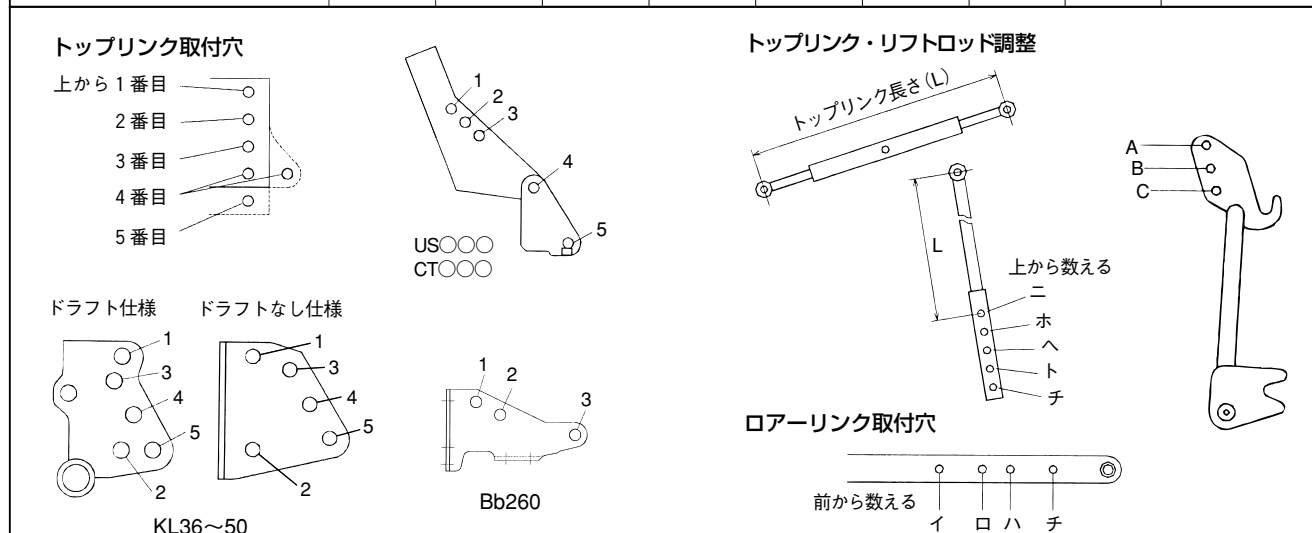
トップリンク・リフトロッド調整



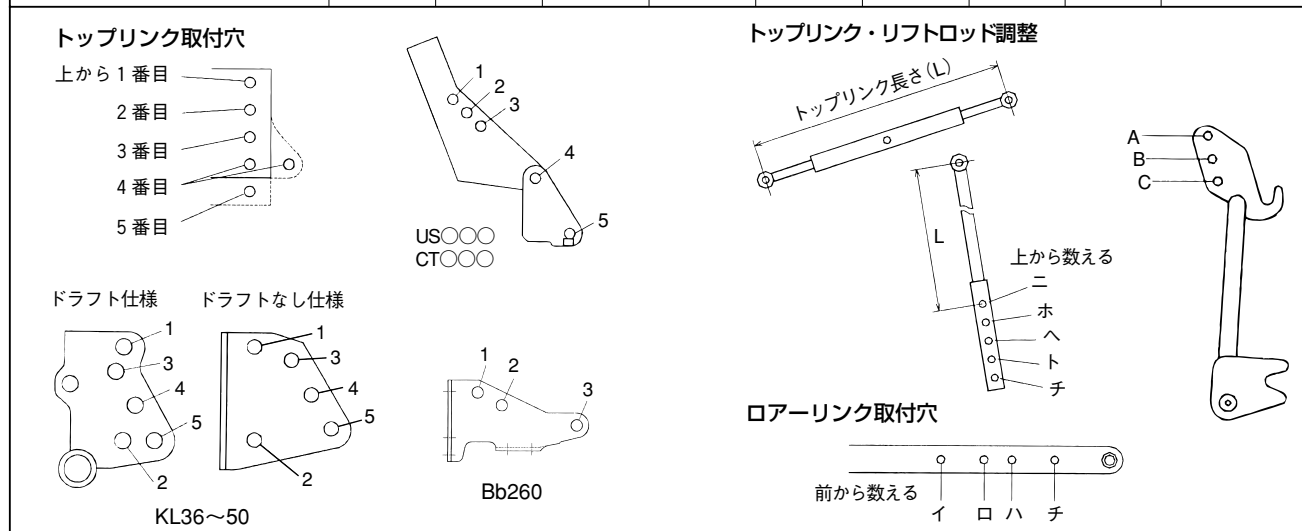
ロアーリンク取付穴



トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC80	
TH 22・24・26 THS 22・24・26	1	イ	へ	470	B	G	90	90	
TF 223(N)(Q)・243(N)(Q)	3	イ	ニ $\ell=440$	580	A	G	70	70	
TF 21(N)(Q)・23(N)(Q) TF 26(N)(Q)	3	イ	ホ $\ell=450$	580	A	G	70	70	
TF 223H(Q)・243H(Q) TF 23H(Q)	3	イ	ホ $\ell=470$	570	A	G	70	70	
TG 233-A・253-A・273-A TG 21-A・23-A・25-A	2	ロ	ホ	540	A	G			
TU 197・217・237・257 TU 185・205・225・245 TU 180・200・220・240	2	イ	ニ	610	A	G	70	70	
TK 21・25・29	2	イ	ホ	540	A	G	60	60	
TG 21・23, TG 25(Q) TG 233・253, TG 273(Q) TGS 25(Q)	3	イ	ニ	600	A	G			
TG 21Q・23Q TG 233Q・253Q TGS 25Q	3	イ	ホ	600	A	G			
TG 27(Q)・29(Q)・31(Q) TG 27L・31L, TG 29H(Q) TG 293(Q)・313(Q) TGS 29(Q)	3	イ	ニ	600	A	G			
TA 207(Q)・227(Q)・247(Q) TA 267(Q)・287(Q)・317(Q) TA 215(Q)・235(Q)・255(Q) TA 275(Q) TA 262(Q)・312(Q)・263(Q) TA 210・230・250	2	イ	ホ	560	A	G	50	50	
TA 295(Q)・325(Q) TA 290・320	3	イ	ホ	550 (540)	A	G			トップリンク長の 540はドラフト 仕様を示す
TH 20C・24C	2	イ	ホ	610	C	G			



トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC80	
MT 201・221・241 MT 200・220・240 MT 185・205 MTX 225・245 MTZ 21・23	3	イ	ホ	600	A	G			
MT 226・246・266 MT 286・306 MT 225・245・265	3	イ	ホ $\ell=491$	630	A	G			
MT 226Q・246Q・266Q MT 286Q・306Q MT 225Q・245Q・265Q	1	イ	ホ $\ell=491$	590	A	G			
MT 265L MT 285・305	3	イ	ホ $\ell=491$	670	A	G			
MT 265LQ MT 285Q・305Q	1	イ	ホ $\ell=491$	640	A	G			
MT 20 MTX 24	3	イ	ホ $\ell=467$	540	A	G	90	90	
MT 22改・24改・26改	3	イ	ホ $\ell=480$	610	A	G			
MT 22・24・26 MT 21・23・25	3	イ	ホ $\ell=480$	630	A	G			
MT 231・251・271 MT 291・311	3	イ	ホ	690	A	G			
MTX 28	3	イ	ホ $\ell=480$	630	A	G			
MT 27・30	4	イ	ホ $\ell=480$	560	A	G			
MTR 250・270・300 MTM 250・270・300	3	イ	ホ	640	A	G			
GS 20	3	イ	ニ	580	A	G	80	80	
GS 21・23・25	3	イ	ホ	590	A	G	50	50	



トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC80	
N 209	3	イ	ホ	480	C	G	30	30	
N 229・239	3	イ	ホ	500	C	G			
N 249・279	3	イ	ホ	510	C	G			
N 329	3	イ	ホ	500	C	G			
NZ 215(B)・235(B) NZ 265	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
NZ 265B NZ 305(B)	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
NZ 210・230・260	3	イ	ト	600	A	G	70	70	
NX 201・221・241 NX 200・220・240 NX 19・21・23	3	イ	ヘ	640	A	G			
NX 201Q・221Q・241Q NX 200Q・220Q・240Q	1	イ	ヘ	590	C	G			
NX 261・277・281 NX 25・27 NX 301Z・321Z	3	イ	ヘ	690	A	G			
NX 261Q・277Q・260Q NX 25Q・27Q	2	イ	ヘ	650	C	G			
NX 301・321 NX 300・320 NX 29・32	3	イ	ホ	750	A	G			
NX 281Q・301Q・321Q NX 280Q・300Q・320Q NX 29Q・32Q	3	イ	ホ	740	C	G			
NTX 21・23・25 NTX 245	4	イ	ヘ	610	A	G			
NTX 28 NTX 28rops	4	イ	ヘ	630	A	G			
NTX 28Q NTX 30・31	4	イ	ヘ	690	A	G			
NTX 21Q・23Q・25Q NTX 245Q	1	ロ	ヘ	620	A	G			

トップリンク取付穴

上から1番目
2番目
3番目
4番目
5番目

ドラフト仕様 ドラフトなし仕様

KL36~50

US○○○
CT○○○

Bb260

トップリンク・リフトロッド調整

トップリンク長さ(L)

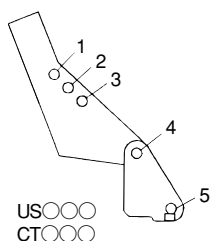
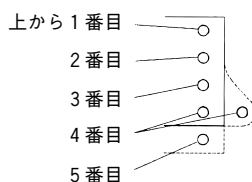
上から数える
ニ
ホ
ヘ
ト
チ

ロアーリンク取付穴

前から数える
イ ロ ハ チ

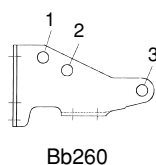
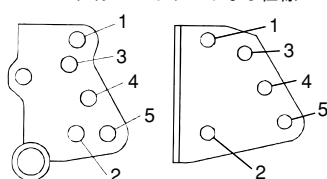
トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC80	
TZ 20(B)・22(B)・24(B)・27	3	イ	ト	610	A	G			
TZ 27B・30(B)	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
TX 18・20・22	3	ロ	ヘ	610	A	G	50	50	
TX 201・221・241 TX 200・220・240	3	イ	ヘ	640	A	G			
TX 201Q・221Q・241Q TX 200Q・220Q・240Q	1	イ	ヘ	590	C	G			
TX 261・281 TX 260・280	3	イ	ヘ	690	A	G			
TX 260Q・261Q	2	イ	ヘ	650	C	G			
TX 301・321 TX 300・320	3	イ	ホ	750	A	G			
TX 281Q・301Q・321Q TX 280Q・300Q・320Q	3	イ	ホ	740	C	G			
TX 212・232・252	4	イ	ヘ	610	A	G			
TX 272	4	イ	ヘ	630	A	G			
TX 302・332	4	イ	ヘ	690	A	G			
TX 212Q・232Q・252Q	1	ロ	ヘ	620	A	G			
MK-30	2	イ	ホ $\ell=725$	670	A	G	TC84M に交換		
MK-30(94)	2	イ	ホ $\ell=675$	670	A	G	TC84M に交換		

トップリンク取付穴

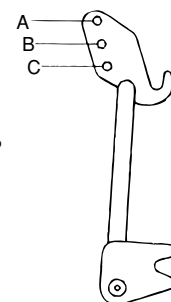
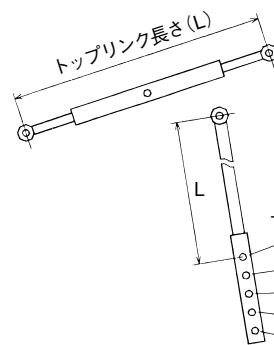


ドラフト仕様

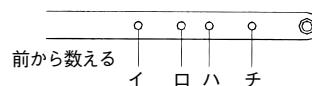
ドラフトなし仕様



トップリンク・リフトロッド調整



ロアーリンク取付穴



点検整備一覧表

時 間	項 目	参照ページ
新品使用始め	ギヤーケース、チェンケースのオイル量確認	22～23
新品 1 時間使用后	全部のボルト、ナットを増し締め	22
新品50時間使用后	①ギヤーケース、チェンケースのオイル交換	30
毎日の作業前	①ギヤーケース、チェンケースのオイル量、オイル漏れの点検	22～23
	②耕うん爪、ディスク軸の取付ボルトの増し締め	28
	③ジョイントのグリスニップルへのグリス注入	22
	④地面から上げて空転での、異音、異常振動等、異常の点検	23
毎日の作業後	①洗浄後、水分拭き取り	29
	②ボルト、ナット、ピン類の緩み、脱落の点検	22
	③耕うん爪、ディスクの摩耗、折損の点検	28
	④入力軸へグリス塗布	29
	⑤ジョイントスプライン部へグリス塗布	29
	⑥ジョイント、ノックピンへ注油	22
	⑦可動部へ注油	
150時間毎又は シーズン終了後	①ギヤーケース、チェンケースのオイル交換とオイルシール、 パッキンの異常点検	30
	②ジョイントのシャフトへのグリス塗布	30
	③チェンテンショナの調整	31
	④安全ラベルの剥がれの点検	7
	⑤無塗装部へのサビ止め	
	⑥消耗部品の早期交換	

異常診断一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因となります。

再使用せず、直ちに対策を行ってください。

本体各部	症 状	原 因	対 策
ギヤー ケース	異 音 の 発 生	ベアリングの損傷	ベアリング交換
		ギヤーの損傷	ギヤー交換
		ベベルギヤーのかみ合い不良	シムで調節
	オ イ ル 漏 れ	入力軸：軸受け部オイルシールの損傷	オイルシール交換
		液体パッキンの劣化	液体パッキン塗り直し
		パッキンの劣化、損傷	パッキン交換
		カバー取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
チェン ケース	異 音 の 発 生	チェーンテンショナの調整不良、破損	テンショナ調整、交換
		スプロケットの損傷	スプロケット交換
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
	オ イ ル 漏 れ	軸付きシール、Oリングの劣化、損傷	軸付きシール、Oリングの交換
		カバー取付ボルトのゆるみ	ボルトの増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ベアリングの損傷	ベアリング交換

耕うん軸 ディスク軸	異音の発生	軸受部のベアリングの損傷	ベアリング交換
		耕うん爪取付ボルトのゆるみ	ボルト締め付け
		耕うん爪の変形によるカバーとの干渉	耕うん爪交換
	振動の発生	ディスク軸、爪軸の曲がり	ディスク軸、爪軸交換
		耕うん爪、爪軸へのワラ、草等のかかり	ワラ、草等の除去
		耕うん爪の配列不良	爪配列の点検
	軸回転不良	チェンの切損	チェン交換
		駆動軸の折損	駆動軸交換
		ギヤーの破損	ギヤー交換
	オイル漏れ	軸付きシールの損傷	軸付きシール交換
		パッキン、Oリングの劣化、損傷	パッキン、Oリング交換
	残耕の発生	耕うん爪、ディスクの摩耗、折損、曲がり	耕うん爪、ディスクの交換
		耕うん爪の配列不良	爪配列の点検
ジョイント	異常な土寄りの発生	耕うん爪の配列不良	爪配列の点検
	異音の発生	グリス切れ	グリスアップ
		ジョイント折れ角が不適格	マッチング姿勢の矯正
		ディスクローターの上げすぎ	リフト量の規制
	たわみ発生	シャフトのかみ合い幅不足	長いものと交換
	スプライン部のガタ	ノックピンとヨークの摩耗	交換

用語解説

アタッチメント

作業機に後付けする部品

オートヒッチ

トラクターに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

クリーブ

超低速の作業速度

耕深

耕うんする深さ

3点リンク

トラクターに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク

チェックチェン

トラクターに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェン

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

揚力

トラクターが作業機を上昇させるための力

ジョイント

トラクターの動力を作業機へ伝達するための軸

リフトロッド

トラクターが作業機を上げるためロアーリンクと連結しているアーム

リリーフ弁

油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁

ロアーリンク

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで、左右1本ずつある

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

KOBASHI

小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

☎ (086) 298-3112

インターネットでも弊社の情報をご覧いただけます。

<http://www.kobashikogyo.com>

■北海道営業所	〒071-1248	北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番	☎ (0166) 49-0070
■東北営業所	〒024-0004	岩手県北上市村崎野13地割35-1	☎ (0197) 71-1160
■関東営業所	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1	☎ (028) 687-1600
■新潟営業所	〒942-0041	新潟県上越市安江477-1	☎ (025) 546-7747
■岡山営業所	〒701-0165	岡山市北区大内田727	☎ (086) 250-1833
■九州営業所	〒861-2236	熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F	☎ (096) 286-0202